

飯能市郷土館館報

郷土館のプロフィール

Profile 2011

活動報告書

第9号

平成23年度



飯能市郷土館

あいさつ

飯能市郷土館館報(活動報告書)第9号をお届けします。

この館報は、当館の活動をその内容だけでなく、事業評価を盛り込みながら記録としてまとめたもので、自発的な情報公開を目的として発行するものです。

第5号までは3年毎に刊行してまいりましたが、活動成果をスピーディに公表し、一年間の事業内容を振り返り、次年度の事業展開に役立てるなど、積極的な活用をするために、第6号からは毎年発行しています。今回収録したのは、平成23年度の事業です。

平成23年度は収蔵品展「小島喜八郎寄贈絵画展」から始まりました。小島喜八郎の作品はこれまで市内の風景を描いた水彩画の寄贈を何度か受け、展示してきましたが、平成22年2月に、それとはまったく作風の異なる「紙」・「草」・「風」シリーズと呼ばれる油彩の大作が寄贈されました。これらを多くの市民の皆さんにご覧いただき、小島喜八郎の業績を知っていただくために開催したものです。

秋に開催した飯能戦争をテーマとした特別展「飯能炎上―明治維新・激動の6日間―」はここ数年来になく大好評のうちに幕をとじました。入館者は1日平均154.5人という近年稀にみる多さで、展示図録が会期中に売り切れてしまったことも開館以来2度目です。この展示の準備には前年度から精力的に資料の確認と調査をすすめてきており、その結果として充実した内容の展示ができたこと、市民の関心が高いテーマであったことなどが成功の要因と考えられます。今後もこのような展示を企画していきたいと考えております。

市民学芸員制度は当館の特徴的な市民との協働事業の一つですが、前年度に第Ⅴ期と第Ⅵ期の市民学芸員を養成した結果、「博学連携参加型」の市民学芸員では活性化が図られ、新たに「古文書整理型」の市民学芸員の活動も始まりました。今後、活動がますます活発になるよう配慮していきます。

高名な建築家「遠藤新」の設計とわかった旧平岡レース食堂棟と事務所棟の調査は、前年度末に急遽当館で実施することが決まった事業です。これについても労力をさき、記録保存としての報告書を刊行しました。さらに、平成17年に合併した名栗村で収集していた民俗資料の保存整理、活用については長らく課題として残されていましたが、今年度から委員会を立ち上げその検討を始めました。

当館では市民とともに事業をすすめ、市民が集い情報を交換する場に、また、地域の情報が集まり飯能ならではのものを発信する場になるよう、努力して参ります。

市民の皆様には今後とも、当館の活動へのご参加と、ご支援ご協力を切にお願いいたします。

平成25年3月

飯能市郷土館
館長 柳戸 信吾

目 次

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示の概要	8

第2章 事業

事業概要・事業一覧	10
展示	
（収蔵品展・特別展）	11
（その他の展示）	19
講座・学習会	23
交流	25
博学連携	30
資料・施設の利用	34
レファレンスの対応	39
講師派遣	40
収集	41
整理・保存	43
調査・研究	48
刊行物	51
情報発信	52
郷土館協議会	53
博物館実習	54

第3章 各種データ

利用者数	56
歳出予算	57
図書資料寄贈機関	58
飯能市郷土館条例・施行規則	60

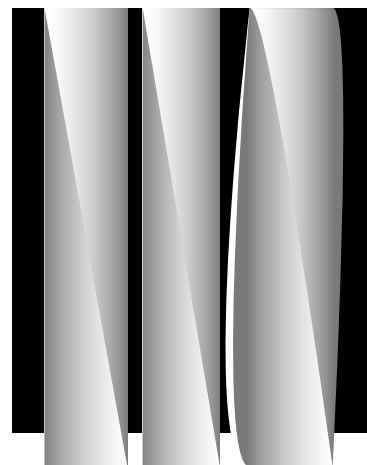
職員	62
利用案内	63

表紙：「飯能市郷土館」ペン・水彩 1990年 小島喜八郎画

沿革

昭和46年 3 月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
昭和50年 4 月	飯能市総合振興計画の基本構想に郷土館建設がうたわれる。
昭和61年 3 月	(株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61年 6 月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62年 3 月	飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
昭和62年 7 月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63年 3 月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元年 4 月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1、係員1)が配置される。
平成元年 6 月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着工する。
平成元年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2年 4 月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2年 4 月	飯能市郷土館が開館する。 (常勤職員は館長1、学芸員1、主事補1)
平成2年 4 月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物—思い出に残る品々—」開催。
平成2年 8 月	特別展「戦時中のくらし」開催。
平成2年 8 月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年開催)
平成2年10月	特別展「飯能文化萌ゆ」開催。
平成2年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動が続ける。
平成3年 2 月	特別展「ひなまつり」開催。
平成3年 4 月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。
平成3年 7 月	友の会主催の郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成3年10月	特別展「絹は語る」開催。
平成4年 4 月	特別展「写真にみる幕末・明治」開催。
平成4年 8 月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージⅠ」を開催。(生涯学習課と共催。平成6年までは毎年開催、その後は隔年で開催)
平成4年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。
平成5年 1 月	友の会主催による「まゆ玉づくり」開催。以後、毎年開催する。
平成5年 4 月	特別展「商—飯能の広告展—」開催。
平成5年 6 月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成5年10月	特別展「碑—連帯のエネルギー—」開催。
平成6年 3 月	『飯能の昭和史年表』発行。
平成6年 4 月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で、初めて特別展の図録をつくる。
平成6年10月	特別展「ジャパンマイセン—瀬戸の磁器人形—」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展は除く)
平成7年 4 月	特別展「いろどりとにぎわいのとき—飯能の民俗芸能・屋台囃子と獅子舞—」開催。
平成7年 7 月	常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成7年10月	特別展「飯能の村医者—幕末・明治の医療—」開催。
平成8年 4 月	特別展「猫・ねずみ—絵ぞうし展—」開催。
平成8年 5 月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8年 8 月	常設展示等企画委員会発足。(任期は平成10年3月まで)
平成8年10月	特別展「飯能の刀匠—小沢正壽を中心として—」開催。会期中に展示図録が完売する。
平成9年 3 月	『飯能市郷土館館報』第1号発行。

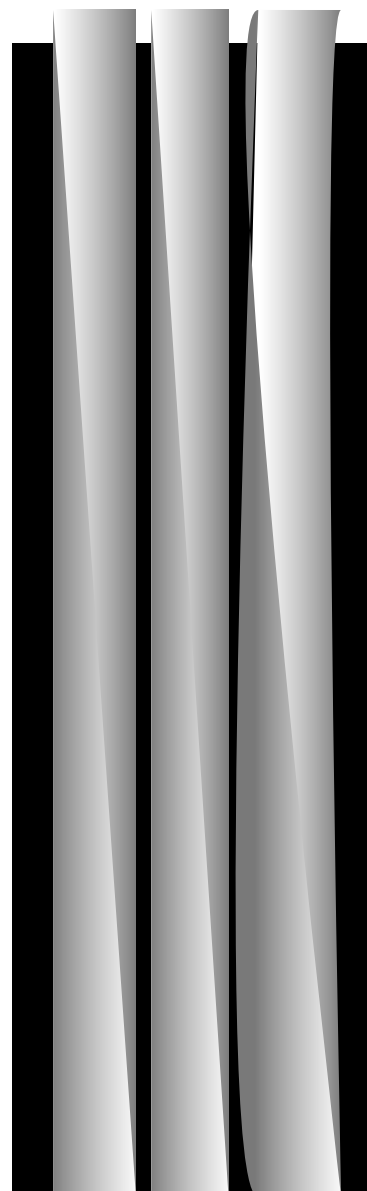
平成9年3月	特別展「明治のハイカラ美人―手彩色絵葉書―」開催。
平成9年10月	特別展「祈りのメッセージ―飯能の絵馬―」開催。
平成10年4月	特別展「高麗の里の独楽展―昔遊びのすすめ―」開催。
平成10年4月	「やさしい古文書講座」開催。この講座の受講生を中心に「古文書勉強会」が結成される。
平成10年8月	恒例の「夏休み子ども歴史教室」を「夏休み親子歴史教室」と改称して実施。
平成10年9月	「中学生社会科研究展」開催。(以後毎年開催)
平成10年10月	特別展「時の記憶―飯能の写真展―」開催。
平成10年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成10年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。
平成11年3月	収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展を開催することとする)
平成11年10月	開館10周年記念特別展「わたしの宝物展」開催。
平成12年1月	第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。
平成12年2月	特別展「飯能スポーツ史」開催。
平成12年3月	博物館法に基づく登録博物館となる。
平成12年10月	特別展「飯能、戦後のくらし」開催。
平成13年2月	第Ⅱ期市民学芸員養成講座開始。
平成13年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13年5月	「郷土館だより」創刊号発行。
平成13年9月	これまでの「中学生社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。
平成13年10月	特別展「黎明のとき―飯能焼・原窯からの発信―」開催。この特別展より夜間開館を実施する。
平成14年10月	特別展「うちおり―織物に込められた想い―」開催。
平成14年10月	郷土館ホームページをインターネット上に公開開始する。
平成15年3月	『収蔵資料目録』Ⅰ発行。
平成15年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成15年10月	特別展「中山氏と飯能・高萩一時と街を結んだ武士の系譜―」開催。
平成16年2月	第Ⅲ期市民学芸員養成講座開始。
平成16年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川―その流域の今昔―」開催。
平成17年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成17年1月	常勤職員が5人(館長、学芸員2、主査2)となる。
平成17年10月	特別展「飯能の水力発電―吾野名栗に電気がひけた日―」開催。
平成19年3月	郷土館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19年4月	常勤職員5人のうち、館長以外の職員が全て学芸員となる。
平成19年4月	開館以来の入館者が50万人を突破する。
平成19年4月	ホームページを全面的に更新する。
平成19年4月	第Ⅳ期市民学芸員養成講座開始。
平成19年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。 (以後、平成23年度まで7回開催)
平成19年10月	特別展「西川林業の道具―森林文化の遺産―」開催。
平成20年3月	『名栗の民俗』(下巻)、『名栗の歴史』(上巻)刊行。
平成20年4月	常勤職員が4人(館長、学芸員3)となる。
平成20年10月	特別展「名栗の歴史―森林とともに歩んだ文化を探る―」開催。
平成21年10月	特別展「縄文時代の飯能―原始の森林に生きた人々―」開催。
平成22年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22年5月	第Ⅴ期・第Ⅵ期市民学芸員養成講座開始。
平成22年10月	飯能市埋蔵文化財保護行政30周年記念特別展「大地に刻まれた飯能の歴史―30年の発掘調査成果から―」開催。
平成22年11月	開館以来の入場者数が60万人を突破する。
平成23年4月	飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討をはじめ。
平成23年10月	特別展飯能戦争「飯能炎上―明治維新・激動の6日間―」開催。(会期中に展示図録が完売する)



第 1 章

..... Chapter 1

【 施 設 】



建物平面図

〈1階〉

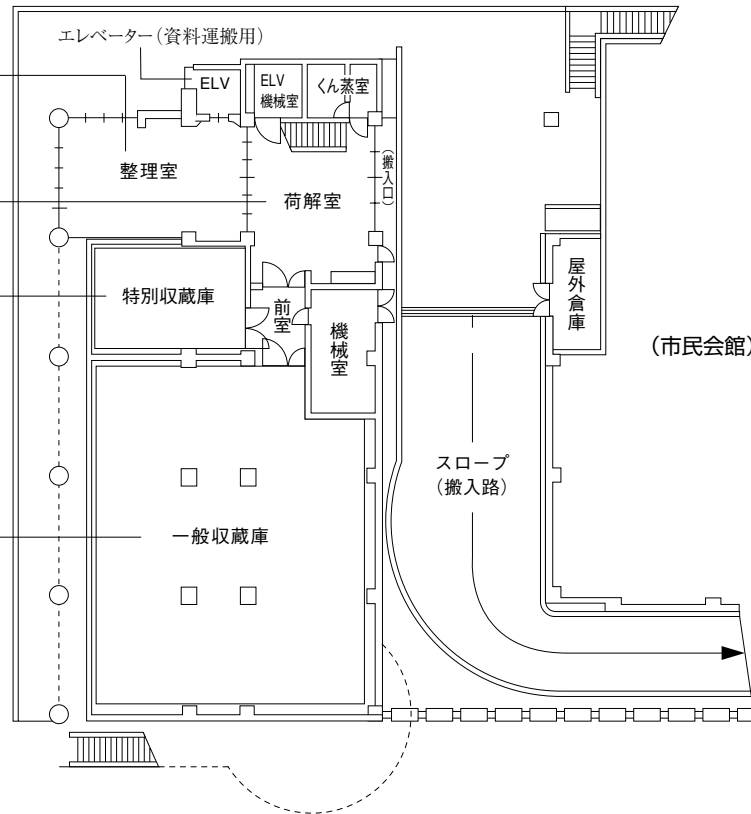
収蔵資料の台帳やカードを作成しその情報を整理する部屋。

搬入された資料の梱包を解く部屋。年1回行われる資料の被覆燻蒸もここで行われる。

古文書・典籍など約43,000点のほか貴重な資料が保管されている。

民具約5,400点、絵画などを収蔵している。

（飯能河原）



〈2階〉

※〈R階〉階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

（駐車場）

主に資料の調査・研究を行う部屋。近隣市町村で刊行した図書類もある。

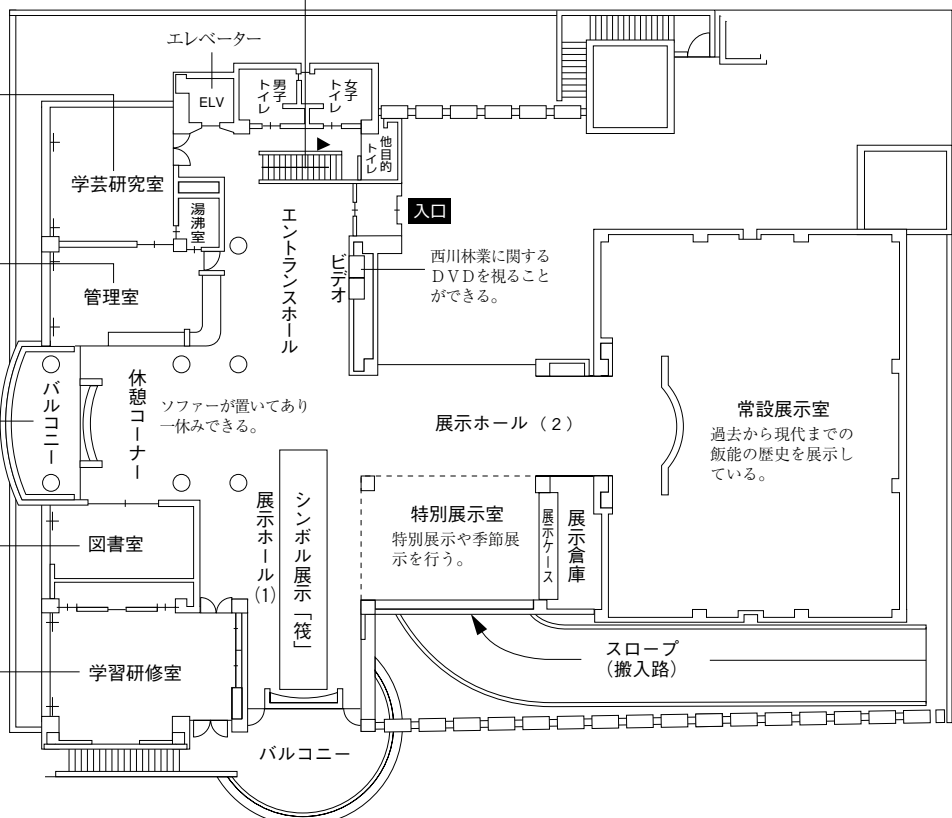
職員がいる部屋。館内の照明や空調などの管理及び刊行物の販売、来館者の質問や電話によるレファレンスに対応する。

ここからの眺めは最高！飯能河原が一望できる。

飯能の歴史や文化、博物館に関連する図書が配架されている。

講座や学習会を実施するほか、定点撮影プロジェクトや市民学芸員の会合を行う。

（飯能河原）



（市民会館）

面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室 名	面 積	室 名	面 積
1 階	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
2 階	959.774	エレベーター	7.500
常設展示室	273.965	R 階	40.040
特別展示室	59.850	階段	15.846
展示倉庫	20.675	階段ホール	15.944
展示ホール (1)	139.750	エレベーター	8.250
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131	合 計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用 途	内 訳	面 積 (㎡)	割 合 (%)
教 育 普 及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収 集 ・ 保 存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調 査 ・ 研 究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.72	25.2

敷地面積 3,626.12 ㎡ 建築面積 1,165.999 ㎡

施設等修繕

- ・敷地南側遊歩道手すり修繕 (5 月)
- ・台風により倒れかかった西側敷地のアカシア 5 本伐採 (9 月)
- ・風除室 (入口) 外扉自動ドア内外センサー修繕 (10月)

常設展示の概要

常設展示には、展示ホール(1)のシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。

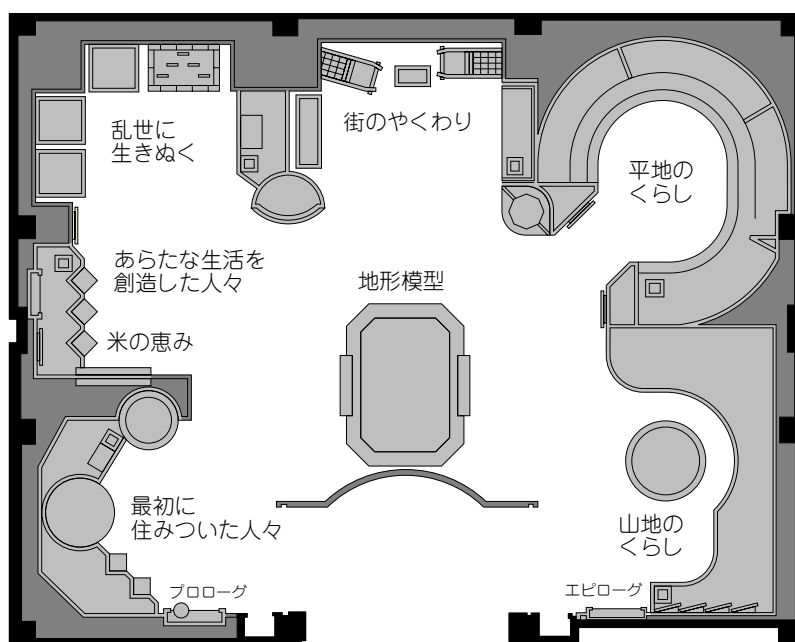
常設展示室は、下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。

なお、常設展示の展示替えについては、平成8・9年度に学識経験者による常設展示等企画委員会を立ち上げ、開館10周年にあたる平成11年度の実施を目指して運営も含めた検討を行ったことがあった。この委員会からは報告書が出されたが、財政難などの理由からそれを実現することができず現在に至っている。

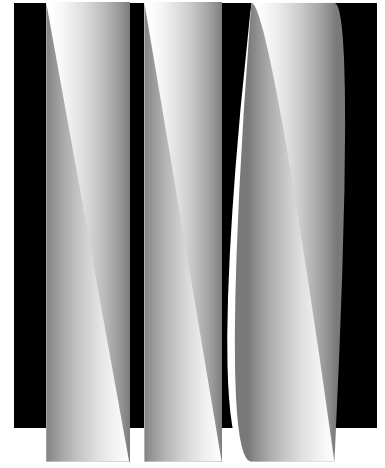
資料保存の観点から、あるいは研究成果を反映させるために、部分的な展示替えはこれまでも行ってきたところであるが、開館後20年以上経過しており、全面的な展示替えが必要な時期となっている。

平成23年度は展示資料の変更はなかった。

なお、常設展示での理解を深めるために「常設展示解説シート」を順次作成し、展示室内に配置してきた。これまで作成したシートは6種類であるが、体裁はまちまちであった。このため昨年度統一した書式を定め、シートの在庫が無くなったものから順次変更することとし、「西川林業」のシートを統一書式に基づき作り直した。平成23年度は「飯能戦争」のシートを新たな研究成果を盛り込んだ内容に改め、書式も統一した。



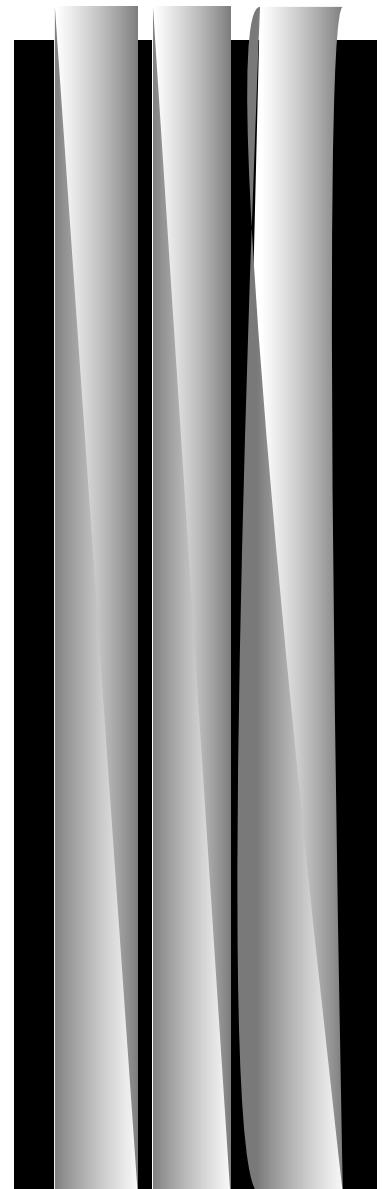
常設展示室



第 2 章

…… Chapter 2 ……

【 事 業 】

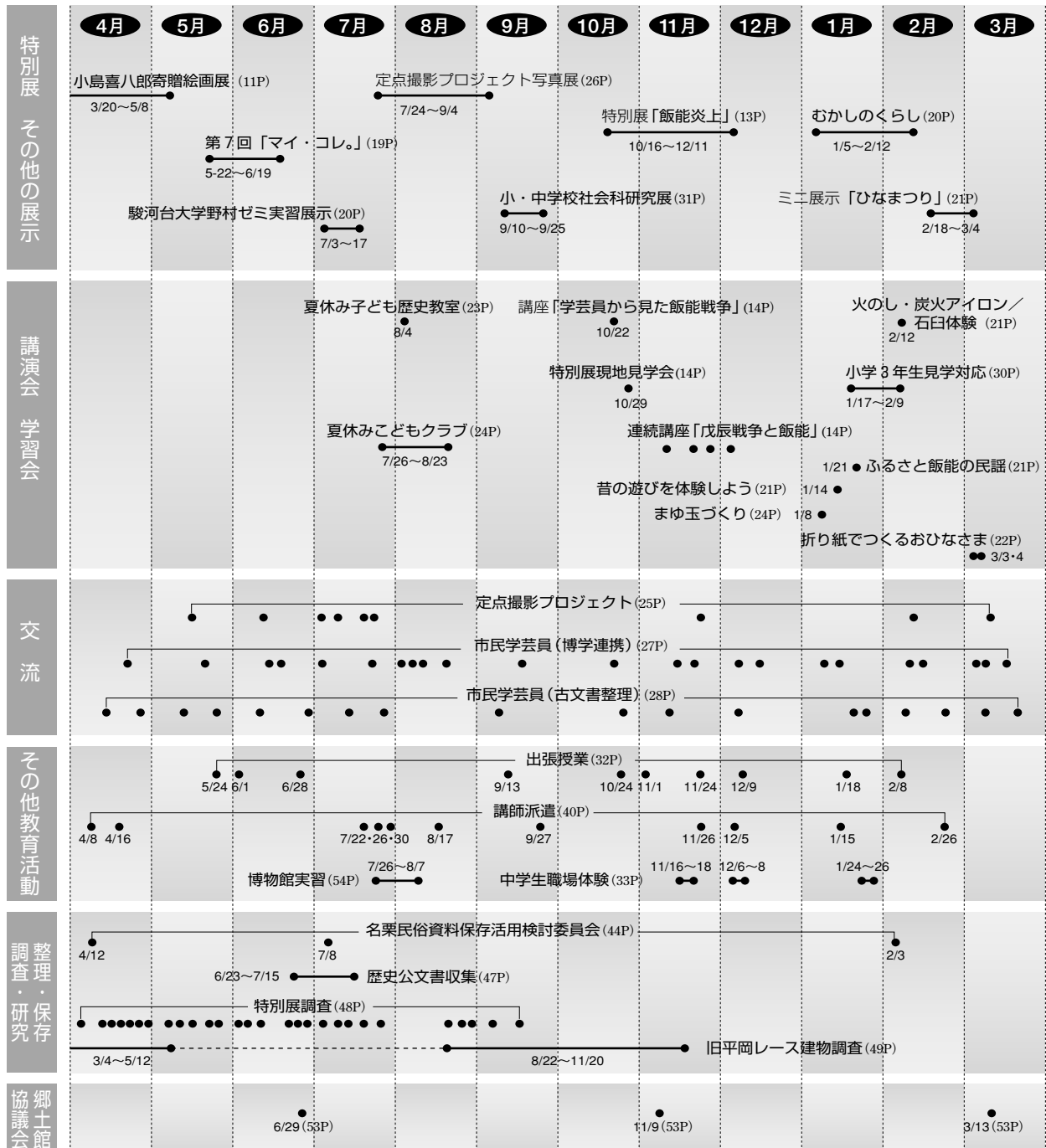


平成23年度の事業

春の収蔵品展では、昨年度に油彩の大作が寄贈されたことから「小島喜八郎寄贈絵画展」を開催した。秋には飯能戦争をテーマとした特別展「飯能炎上—明治維新・激動の6日間—」で1日平均154.5人という近年稀にみる多くの入館者があった。展示図録が会期中に売り切れてしまったことも珍しく、関連事業も好評で、市民の関心に応えた展示ができたと言えよう。

当館独自の市民との協働事業である市民学芸員については、前年度の養成講座を経て人数が増加した結果、「博学連携参加型」の市民学芸員では活性化が図られ、新たに「古文書整理型」の市民学芸員の活動も開始した。

一方、昨年度末から開始した旧平岡レース食堂棟・事務所棟の調査と報告書刊行、旧名栗村で収集した民俗資料の保存整理、活用について委員会を立ち上げ本格的に検討を始めたことなど、新たな事業に取り組んだ年でもあった。この結果当初予算は前年度の約1.5倍に達した。



収蔵品展

小島喜八郎寄贈絵画展

同時開催：新収蔵品展

期 間 平成23年3月20日(日)～5月8日(日)

開館日数 41日間

入館者数 3,849人(1日平均93.9人)

展示点数 絵画17点 新収蔵品40点

総 経 費 217,025円(入館者1人あたり56.4円)

(内 訳) 印 刷 費 78,120 写真関係費 2,500

通信運搬費 32,160 消耗品費 5,125

展示委託料 68,250

賃 金 30,870

1 趣 旨

当館は歴史系博物館であるが、様々な経緯を経て一定量の絵画も収蔵している。収蔵絵画は飯能に住んでいた画家たちのものが中心である。

平成22年2月、小島喜八郎氏(平成20年2月逝去)のご遺族から「紙」、「草」、「風」シリーズと呼ばれる油彩大作11点が寄贈された。これとは別に小島氏からは、生前に数回にわたって、市内各地の風景水彩画47点の寄贈を受けており、それらは新収蔵品展などで紹介してきた。

これまで、白木正一、早瀬龍江、富山芳男、内田晃など、市内の画家の作品を一括して受領した際には、それらを市民に広く紹介するための絵画展を開催してきた。今回、風景画だけでなく、油彩の大作が寄贈されたことで小島氏の代表作がそろったため、小島喜八郎が描いた世界を紹介することを目的に、収蔵品展として開催した。

なお、平成22年度に寄贈を受けた資料を紹介するための「新収蔵品展」を同時開催した。

2 展示の構成

展示ホールと特別展示室を一体として使い、シンボル展示「筏」が展示してある側(南側)約2/3の空間をパネルで仕切り、南側を小島喜八郎寄贈絵画展、北側を新収蔵品展のコーナーとした。

小島喜八郎の略歴と作品

小島喜八郎は昭和10年(1935)、飯能市に生まれ、飯能高校卒業後、昭和30年(1955)、西武鉄道(株)に入社。この頃、自宅近くに住んでいた画家・白木正一、早瀬龍江夫妻から絵画の手ほどきを受け、昭和33年(1958)から美術文化協会展に作品を発表した。その後白木、早瀬夫妻はアメリカに旅立ってしまったが、

白木正一の影響を受けたシュール的な絵や抽象画を中心に描き続けた。

昭和45年(1970)頃から、丸められ幾重にも皺を刻んだ紙の上にシルエットと化した人影が行き交う「紙の上の世界」を描き始め、安井賞展、現代日本美術賞展などにたびたび入選した。昭和47年(1972)、37歳の時に会社を辞め、画家として独立した。

昭和53年(1978)から、画面一面に草むらを描いた「草」を描き始め、やがて昭和58年(1983)頃からは草の光と影を緻密に描いたスーパーリアリズムの「草」へと発展した。まるで写真のように見えるこれらの作品の製作は、緻密で時間のかかる作業で、作者自身も「おし黙って草」を描いた。まるで写経のように」と語っている。

その後、平成10年(1998)からは、風に揺れる草木の姿態を描いた「風」の作品を発表している。

身近で何気ない存在に注目し続けてきた画家は、〈風〉という目に見えない存在、自然現象に新境地を見出した。庭の草木や森の木々が揺れることで実態のない〈風〉を表現している。

これらの大作を描く傍ら、昭和52年(1977)頃から



小島喜八郎寄贈絵画展示風景

展示資料目録

No.	作品名	制作年	素 材	備 考
1	東銀座通り		紙、水彩	水彩風景画
2	広小路		紙、水彩	水彩風景画
3	本郷の交差点		紙、水彩	水彩風景画
4	赤い屋根がある風景		紙、水彩	水彩風景画
5	道沿いの家並		紙、水彩	水彩風景画
6	東飯能駅西口付近		紙、水彩	水彩風景画
7	静 物	1974年	キャンバス、油彩	「紙」シリーズ
8	作品（草）Ⅰ	1980年	麻地、油彩	「草」シリーズ
9	草(AM 8:30) 同一の草の一日Ⅱ	1986年	キャンバス、油彩	「草」シリーズ
10	草(PM12:00) 同一の草の一日Ⅱ	1986年	キャンバス、油彩	「草」シリーズ
11	草(PM 4:00) 同一の草の一日Ⅱ	1986年	キャンバス、油彩	「草」シリーズ
12	草花（白）	1989年	紙、水彩	「草」シリーズ 野菊
13	草花（赤）	1990年	紙、水彩	「草」シリーズ 彼岸花
14	草花（黄）	1989年	紙、水彩	「草」シリーズ キクイモ
15	草花（青）	1990年	紙、水彩	「草」シリーズ ショッカセイ
16	7月の庭にて	2003年	キャンバス、油彩	「風」シリーズ 木
17	5月の対岸にて	2007年	キャンバス、油彩	「風」シリーズ オオデマリの花

何気ない地元の風景の水彩画を多数描き続けてきた。平凡な自然と建物が同居している風景、自然が働きかける姿と人間の行動や思いが形となったもの、四季の移り変わりなどである。このような観点から30年以上にわたって描かれてきた各地の風景は、絵画的な価値だけでなく、その時々飯能の日常の風景を伝える資料としても意義をもつものとなっている。

展示の構成

小島喜八郎が市内各地の風景を描いた水彩画はこれまでも当館で寄贈を受けた毎に展示したり、市内の画廊等でも何度も展覧会を開催しているので、多くの市民はその存在を知っている。このため、身近に感じる水彩画6点を導入部に展示し、小島喜八郎の業績の一端を紹介した。

しかし、「草」「風」に代表される大作を同時に描いていたことは市民にあまり知られていない。このため、今回寄贈された11点の作品を制作年順に展示した。

皺になった包紙から林檎が顔を出している紙シリーズの「静物」、草シリーズの製作過程がわかる「作

品(草)Ⅰ」、草むらの同一場面を時間を変えて描いた「同一の草の一日Ⅱ」の3部作、草シリーズでは珍しく、水彩により四季の花を描いた「草花」と題された4点、風にゆれる草木を描いた「7月の庭にて」と、同じく風シリーズで遺作となった「5月の対岸にて」である。

一方「新収蔵品展」では固定ケースとのぞきケースを用い、平成22年度に寄贈を受けた資料を展示した。

3 印刷物

ポスター(B 2判カラー)	300枚
案内はがき	200枚
リーフレット(A 4判白黒2ページ)	300枚

4 評 価

今回の展示では、小島喜八郎が風景の水彩画を描くだけでなく、「紙」、「草」、「風」といった大作を描き、それが絵画界では評価されていたことを市民の多くに知ってもらうことを第一に意識した。これらの大作と風景画は一見全く違う作風に見られるが、その根底には、誰もが気かけない身近で何げないものを対象としているところに共通点を見いだせるとも言える。

小島喜八郎が対象としたものは、入間川沿いの草むら、庭の草木を渡る風、街中のいつもの風景・・・、何気なく普通には見過ごされてしまうもの。一貫して自分の生活圏にモチーフを求め、飯能を見つめ続けてきた。

飯能を愛し、飯能を題材に描き続けてきた画家、小島喜八郎の生涯とその意欲をこの展示で感じていただけたと思う。



新収蔵品展展示風景

飯能炎上 ―明治維新・激動の6日間―

期 間 平成23年10月16日(日)～12月11日(日)

開館日数 47日間

入館者数 7,260人(1日平均154.5人)

展示点数 105点

総 経 費 2,466,651円(入館者1人あたり339.8円)

(内訳) 印 刷 費	912,900	写真関係費	66,802	展示委託料	250,625
通信運搬費	767,198	消耗品費	81,861	報 償 費	80,000
賃 金	181,170	図 書 費	9,975	会場借上費	10,450
旅 費	58,930	通 行 料	46,740		

1 趣 旨

飯能戦争は、慶応4(1868)年1月の鳥羽・伏見の戦いで幕を開けた戊辰戦争の一地域戦である。戦闘自体は半日で終結したことと、維新政府方からは上野戦争の残党を掃討するという位置づけだったため、一般的にはそれほど知られていない事象である。

しかし、舞台となった飯能の町では、民家200戸、寺院六ヶ寺が焼失するという甚大な被害を蒙っている大きな事件であることから、市民の関心も高くこれまで様々に語られ、また書かれてきた。ただしその中には、その根拠となる史料が明記されていなかったり、旧幕府方の中心であった振武軍の特定の人物の動きなどしか記述されていないものもあり、飯能戦争の実態、特に現在の飯能市域における戦争の状況が必ずしも明らかになっているとは言い難いところがある。

ところが、近年の多摩地区における市町村史編さん事業の進展によって、飯能に行き着くまでに振武軍が発給した文書や、周辺の村々に残る風説書などの存在が知られるようになってきた。そこで、今回

の展示では、それらの新出史料と新政府方を構成していた西国諸藩の史料などから、振武軍が結成されてから戦争が終結するまでを、史料に記されたことに基づいて丹念に描き、あわせて戊辰戦争で使われていた銃火器類を展示することにより、当時の戦争についてのより具体的なイメージを来館者にもってもらうことを目的とした。

2 展示の構成

プロローグ(飯能戦争とは何か)

振武軍の頭取である渋沢成一郎と飯能地域との関わりや、成一郎が彰義隊に参加するまでの振武軍結成前の状況を展示した。

I. 振武軍の結成と上野戦争

渋沢成一郎らが天野八郎らとの対立を経て上野の山を下り、振武軍を結成してから上野戦争が終わるまでの動きを追った。

II. 振武軍田無に現る！

彰義隊の支援のため一度は江戸に向かった振武軍が、上野戦争終結の報を聞き、田無から箱根ヶ崎を経て飯



展示風景 III. 飯能戦争始まる



展示風景 IV. 飯能「町」での戦い



展示風景 四斤山砲の展示



展示風景 飯能戦争で使われた武器

能にやってくるまでの経緯を表した。また、振武軍が行った改革組合村のシステムを利用した軍用金の調達や、人足の動員などが地域にどのような影響を与えたのかを示した。

Ⅲ. 飯能戦争始まる

飯能戦争に参加した新政府方と、振武軍などの旧幕府方がそれぞれどのような人たちで構成されていたのか、その具体像に迫った。

Ⅳ. 飯能「町」での戦い

振武軍など旧幕府方が飯能の「町」に入った5月18日から23日に壊滅するまでの戦闘の展開や、飯能の「町」が受けた被害について紹介した。

エピローグ(「飯能戦争」、その後)

飯能戦争終結後の飯能の「町」の復興と昭和に入ってからその再評価について、その意味を検討した。

3 印刷物

ポスター(B2判カラー)	300枚
チラシ(A4判両面・表カラー、裏1色)	8,000枚
展示図録(A4判カラー56ページ)	1,100部
※会期中売り切れにつき300部増刷	

4 関連事業

◎講座「担当学芸員から見た飯能戦争」

日 時 10月22日(土) 午後2時～4時
講 師 尾崎泰弘(当館学芸員)
会 場 当館学習研修室
参加者 29人

◎現地見学会

日 時 10月29日(土) 午後1時30分～4時
講 師 尾崎泰弘(当館学芸員)
参加者 23人

◎連続講演会「戊辰戦争と飯能」

(会場) 市民会館202会議室

①「江戸開城と関東の騒乱」

日 時 11月13日(日) 午後2時～4時
講 師 松尾正人氏(中央大学)
参加者 73人

②「戊辰戦争における兵器と軍装

ー飯能戦争を中心としてー」

日 時 11月20日(日) 午後2時～4時
講 師 浅川道夫氏(日本大学)
参加者 68人

③「飯能戦争の記録」

日 時 11月27日(日) 午前10時～正午
講 師 宮間純一氏(宮内庁書陵部)
参加者 67人

④「飯能戦争と振武軍ー地域民衆と戦争の社会史ー」

日 時 12月4日(日) 午後2時～4時
講 師 保谷 徹氏(東京大学史料編纂所)
参加者 70人

5 評 価

これまでの飯能戦争についてのまとまった歴史叙述としては、昭和12年の『飯能戦誌』(吉田筆吉著)を皮切りに、『飯能郷土史』(飯能第一国民学校編・昭和19年)、『飯能戦争』(新井清寿著・昭和63年)、『飯能市史 通史編』(昭和63年)などがある。これらは、飯能戦争に関係する史料の所在情報が十分でないなかで編まれたため、その全体像を描き切れていない。飯能戦争は、当館において開館以来市民からの問い合わせが多い歴史事象であっただけに、それに十分答え切れないもどかしさをもってきていた。

しかし、自治体史編さん事業が進展し、またインターネット環境が整備され、東京大学史料編纂所や国立公文書館などの研究機関・アーカイブズなどの所蔵



講演会 「江戸開城と関東の騒乱」 (松尾正人氏)



講演会 「飯能戦争と振武軍」 (保谷 徹氏)

史料のデジタル化が進んだことによって、飯能戦争に関係する史料に容易にアクセスできる環境が整ってきた。また、当館の古文書所在確認調査などによってはぐくまれた当該期の研究者とのつながりは、その情報を広げ豊かなものにした。加えて近年の幕末軍事史研究の進展も無視できない。

こうしたことが相まって、当館はようやく長年の懸案であった飯能戦争の特別展を開催することができた。ただ、史料が増えた分、それがどのような立場で記されたものなのかを吟味して使うことが求められるようになった。

また、周知のごとく渋沢成一郎は、渋沢栄一の従兄弟であり、2人はともに一橋家に出仕した間柄であった。しかし、戊辰戦争の時期、栄一はフランスに行っておりこの戦いに参加していない。その栄一が帰国後行った飯能戦争の掘り起こしと、それに参加した一族の名誉回復のための活動によって生み出された歴史像は、今もって飯能戦争像に強い影響を与えてきている(旧幕府方を渋沢成一郎や尾高惇忠中心に描くことや、新政府方の主力を川越に集結した部隊としたことなど)。それを払拭するため、本展ではやや煩雑にはなるものの、根拠となる史料を明示しながら、人物本位でなく記述を進めることをコンセプトとした。

結果としては、多くの人から今回の展示を評価する声をいただき、それは入館者数にも現れている。また、図録の売り行きも上々で、当館開館以来初めてその増刷(300部)も行った。また、付帯事業の申し込み受付初日に、開館前に列ができたなど異例なことづくめであり、これらのことからみても、飯能戦争に対する市民の関心がいかに高かったかがわかる。

アンケートには、入館者の2.1%にあたる151人の方が回答してくださったが、それを見ると、飯能戦争を初めて知った驚きのほか、展示資料の数の多さとその多様性、展示のわかりやすさを挙げる声が多かった。展示資料の多さは、今回、他館から多くの資料を借用して展示したことに対する評価であろうし、「わかりやすさ」は、飯能戦争を具体的にイメージできる銃砲類や、戦争当事者である新政府方下参謀渡辺清左衛門や、振武軍頭取の渋沢成一郎の写真や渋沢平九郎の佩刀などを展示したことによるものであろう。

一方で、展示が「歴史に詳しい人に合わせて作られていて難解であり、当館の自己満足に終わっている」といった厳しい指摘や、展示室における話し声(他の来館者だけでなく館職員による関係者への案内も含め)に対する苦情など、これまでには見られなかったシビアな内容のものが寄せられた。アンケートで見る限り初めて来館した方の割合が、昨年度の特別展より10%ほど増えており、こうした反応の裏には、日頃から博物館に親しんでいる、目の肥えた来館者が増えたこともあるように思われた。

また、販売が好調であった図録であるが、誤りも多く正誤表の更新を必要とされる機会が幾度となく訪れた。もとより編集者であり、そのほとんどを執筆した担当者の責任であることはいうまでもないが、組織の問題としてとらえ、このようなことがないようにチェック機能をより高めていくための方策が求められる。

(付論) 本展示の広報活動とその評価

当館における特別展の広報活動は、基本的に①「広報はんのう」への掲載、②ポスターやチラシを市の施設に配布、③マスコミへの情報提供(取材依頼)の3つである。しかし、実際はこれだけでは不十分で、PR不足を指摘されることもしばしばである。さらなる周知を目指すには、広告にお金をかけるしかないと思うが、そのためには、館の運営に関わる他の経費を削って捻出するしかない。そこで、今回の特別展では、広報は従来どおりとし、このうち②のポスター

ー・チラシの配布を見直すこととした。以下はその概要と評価をまとめたものである。

①配布方法

ポスターとチラシは、本庁舎、公民館、飯能駅にある市民課サービスコーナーといった公共施設を中心に配布されている。しかし、今回これらの施設を回って確認したところ、少なくとも公民館では13館中7館でポスターが貼られていなかった。同じ市の組織だからといって、配布すれば必ず掲示してもらえるわけではないことが判明した(後日、公民館館長会議で当館館長が出席し掲示を依頼)。

逆に効果があることがわかったのは、市民学芸員や定点撮影プロジェクトメンバーなど、館に出入りする市民によるPRである。それぞれの方の日頃のおつきあいの範囲や所属する団体での集会などでポスター34枚(印刷枚数の1割)とチラシ550枚が配布された。当館が直接お願いしたのは掲示してもらえない飯能駅構内は、こういった方が依頼したことによって実現した。今回、ポスターをよく見かける、といった声を聞くことが多かったが、これはこのような草の根の周知活動による効果と考えられる。

②配布先

今回は、こうした情報を求めている人を意識して配布先を設定することとした。新たに行ったのは、郷土芸能保存会主催のおはやしフェスティバル(9/17)、隣の市民会館で行われたテレビ東京の「何でも鑑定団」公開録画日(10/16)、あるいは駿河台大学と本市の共催である「ふるさと喜楽学」(地域学講座)の会場でのチラシ配布である。

また、チラシではないが、『歴史読本』などの一般歴史雑誌のほか、『多摩のあゆみ』や『地方史研究』などの地域史系雑誌などにも展示会の情報を掲載してもらった。

③配布時期

これまでは、納品されたポスターの配布(展示会開催約1ヶ月前)と展示開始後間もなくのマスコミへの情報提供の2つしか周知活動を行っていなかった。会期前と展示会開催後の時期に限定されていたのである。今回は、これに加え、会期半ばの「中押し」ともいえる広報活動を意識して行うこととした。

まず、開始直後の2週間では、市外からも多くの人たちがやってくる「飯能まつり」を利用しての広報活動を新たに行った。「飯能まつり」は、5月のツーデーマーチ、1月の奥むさし駅伝とならぶ本市を代

表するイベントであり、この時には臨時案内所が、大通りの商工会議所前、東飯能駅西武線改札前、飯能駅改札前の3ヶ所設置される。ここでの配布を担当の商工観光課を通して依頼した。ところが当日確認してみたところ、チラシは大通りの案内所1ヶ所の、しかも隅の方に山積みされているだけで、とても気軽に取ってもらえるような状態になっていなかった。そこで、そこにあるものを分けて他の2つの案内所に持って行ったが、ここでもなかなか依頼したとおりににはならないことを痛感した。

次に会期半ば以降でのPRであるが、この時期は、東郷公園(吾野)のもみじまつり(11/19・20)でのチラシ配布を行った。この機会を取り付けてきてくれたのは実は市民学芸員の方であった。5,000枚以下なら何枚でも、という太っ腹?なお申し出をいただいたのだが、その時には650枚ほどしか残っていなかったもので、そのすべてをそちらに回した。

またそれと前後してはんとう生活祭(11/3)、森林文化サミット(11/3)などの会場での配布を依頼したが、前者では10枚、後者で50枚程度しか持って行ってもらえなかった。

そのほか、この時期に市内のゴルフ場2ヶ所へのチラシ配布のお願いし、既に配布を依頼してあった機関、施設のチラシ残部を確認し、減っているところに補充することも行った。

④まとめ

以上からわかったのは、例え本市の施設であっても、当館で期待した通りにポスターやチラシが取り扱ってもらえない、ということである。それぞれの施設には施設なりの事情(掲示スペースや地元のイベントを優先せざるを得ないことなど)もあろうが、特に特別展については、当然に掲示されるような関係性を構築しておくことが求められる。また、実際にポスターがいつ貼られたのか、チラシが何枚配布されたのかといった効果測定も必要であろう。

今回、ポスターはすべて配布したが、チラシは展示終了時で100枚余りが残った。これは会期末になって配布依頼先から余って戻って来たものであるが、あと100人に展示会の開催を知らせることができたわけである。アンケート結果からは、来館者の3割以上はポスターやチラシで展示会の情報を得ており、これらが最大の広報メディアであることに変わりはない。今後ともこのメディアをより効果的なものにしていくためのアクションとチェックを繰り返していくしかないであろう。

展示資料目録

No.	資料名	点数	所蔵者	形態	備考
プロローグ 飯能戦争とは何か					
1	文久4年「御用留」	1	当館蔵	原資料	浅見家文書 33
2	『山鵲一声』	1	台東区教育委員会	原資料	
3	「〔彰義隊頭取仰付ニ付達〕」	1	台東区教育委員会	原資料	
4	彰義隊旗	1	靖国神社遊就館	写真	
第Ⅰ章 振武軍の結成と上野戦争					
5	慶応4年「御用向扣帳」	1	小平市中央図書館	原資料	小川家文書 D6-108 ★
6	錦絵「東台大戦争図」	9	皆川宣男氏	写真	
7	錦絵「本能寺合戦之図」	1	台東区教育委員会	原資料	
8	「此花新書」第五號	1	皆川宣男氏	写真	
9	東叡山焼失略図	1	皆川宣男氏	原資料	
10	因州(鳥取)藩兵士着用のシャツ	1	港区教育委員会	原資料	※11月6日までは写真 ☆
11	因州(鳥取)藩兵士の軍服	1	港区教育委員会	原資料	※11月6日までは写真 ☆
12	同上 傷の説明布	3	港区教育委員会	写真	
13	因州(鳥取)藩兵士の外套	1	港区教育委員会	写真	☆
14	「上野の黒門」	1	円通寺	写真	荒川区南千住
第Ⅱ章 振武軍田無に現る！					
15	田無村周辺村々往還図	1	個人	原資料	下田家文書 L1-44
16	天保14年田無村絵図	1	個人	原資料	下田家文書 L1-9
17	「柳沢宿」挿絵(『御嶽菅笠』)	1	大野哲夫氏	写真	
18	旧下田名主役宅	1	西東京市中央図書館	写真	
19	総持寺	1		写真	西東京市田無町
20	観音寺	1		写真	西東京市田無町
21	箱根ヶ崎村絵図	1	村山友直氏	原資料	村山家文書 ☆
22	「箱根ヶ崎村」挿絵(『新編武蔵風土記』)	1	国立公文書館	写真	
23	慶応4年「御用留」	1	村山友直氏	原資料	村山家文書 A1-89 ☆
24	「乍恐以書付奉願上候(転陣願)」	1	村山友直氏	原資料	村山家文書 ☆
25	円福寺	1		写真	瑞穂町箱根ヶ崎
26	「〔仁義隊〕感状之事」	1	鈴木源太郎氏	原資料	鈴木家文書 4155
27	「〔振武軍目付方より書付来着ニ付同道願〕」	1	国文学研究資料館	原資料	富沢家文書 791／11月11日から展示
28	「〔振武軍村々出金書上〕」	1	国文学研究資料館	原資料	富沢家文書 No.791／11月11日から展示
29	「覚(振武軍軍用金受取)」	1	石神井公園ふるさと文化館	原資料	栗原家文書 12
30	「覚(振武軍軍用金受取)」	1	鈴木源太郎氏	原資料	鈴木家文書 4155
31	「覚(振武軍軍用金受取)」	1	調布市総務部総務課	原資料	原家文書 A-48
32	「覚(振武軍軍用金受取)」	1	小平市中央図書館	原資料	小川家文書 G5-26 ★
33	「覚(振武軍軍用金受取)」	1	入間市博物館	原資料	友野家文書 401
34	日野宿組合村の廻状	1	国文学研究資料館	原資料	富沢家文書 791／11月11日から展示
35	「〔軍用金残金催促状〕」	1	小平市中央図書館	原資料	小川村小川家文書 G5-24 ★
36	「振武軍出頭申渡状」	1	調布市総務部総務課	原資料	原家文書 A-47
第Ⅲ章 飯能戦争始まる					
37	大総督府下参謀渡辺清左衛門	1	大村市立史料館	写真	大村家文書 S-280-30
38	「青梅・扇町屋攻撃指令ニ付書付」	1	大村市立史料館	原資料	大村家文書 o-403-2
39	「武州青梅辺出張ニ付達」	1	大村市立史料館	原資料	大村家文書 o-403-26
40	「新精」隊旗	1	大村市立史料館	複製	
41	「新精」隊旗	1	大村市立史料館	写真	原資料の写真
42	「大村藩隊」旗	1	大村市立史料館	複製	
43	「大村藩隊」旗	1	大村市立史料館	写真	原資料の写真
44	戊辰役参戦ノ青年勇姿(大村藩兵)	1	大村市立史料館	写真	大村家文書 S-280-24
45	戊辰役参戦ノ青年勇姿(大村藩兵)	1	大村市立史料館	写真	大村家文書 S-280-24
46	「総房州賊徒追討之御褒詞」	1	大村市立史料館	原資料	大村家文書 o-403-38
47	「東征日誌第参」	1	大村市立史料館	原資料	大村家文書 o-403-29／11月8日から展示
48	「久留米藩井上達也報国日誌写」	1	久留米市立図書館	写真	新有馬文庫 7034
49	佐土原城跡	1		写真	
50	樺山(舎人)久舒ガラス板写真	1	個人	原資料	
51	樺山久舒袖章(錦)	1	個人	原資料	

No.	資料名	点数	所蔵者	形態	備考
52	樺山久舒肩章(大総督府印)	1	個人	写真	
54	佐土原藩士瀬ノ口吉郎次	1	個人	写真	宮崎市佐土原歴史資料館寄託
55	川越城本丸御殿	1		写真	川越市郭町
56	渋沢喜作(成一郎)	1	国立歴史民俗博物館	写真	H-62-20-16-1-3-91
57	渋沢平九郎昌忠	1	渋沢史料館	写真	
58	「〔高岡槍太郎日記〕」	1	個人	原資料	
59	振武軍廻文	1	個人(当館寄託)	原資料	☆
60	渋沢平九郎昌忠佩刀	1	渋沢史料館	原資料	
61	陣羽織	1	須田忠男氏	原資料	
62	振武軍旗	1	個人(当館寄託)	原資料	
第Ⅳ章 飯能「町」での戦い					
63	「〔飯能戦争攻防図〕」	1	埼玉県立歴史と民俗の博物館	原資料	
64	「大砲玉箱」	1	個人	原資料	
65	大砲玉箱箱書(側面)	1	個人	写真	
66	四斤山砲榴弾	1	個人	原資料	
67	「飯能縄市」(『新編武蔵風土記』)	1	国立公文書館	写真	
68	「能仁寺」挿絵(『新編武蔵風土記』)	1	国立公文書館	写真	
69	寛政二年「〔能仁寺境内図〕」	1	能仁寺	原資料	
70	能仁寺	1		写真	
71	「智観寺」挿絵(『新編武蔵風土記』)	1	国立公文書館	写真	
72	大正期の智観寺境内	1	智観寺	写真	
73	智観寺	1		写真	飯能市中山
74	観音寺	1		写真	飯能市山手町
75	「焼失御届書」	1	智観寺	原資料	
76	広渡寺	1		写真	飯能市八幡町
77	玉宝寺	1		写真	飯能市東町
78	心応寺	1		写真	飯能市原町
79	渋沢平九郎昌忠自刃の地	1		写真	越生町黒山
80	渋沢平九郎首骸貰受証書	1	渋沢史料館	原資料	初期来簡 2-12
81	法恩寺	1		写真	越生町越生
82	三峯神社	1		写真	秩父市三峯
83	彰義隊士水橋右京墓	1	満福寺	写真	深谷市畠山
84	「古今稀成年代記第壱号」	1		原資料	平沼家文書 216
85	ミニエー銃弾	3	当館蔵	原資料	
86	エンフィールド銃	1	板橋区立郷土資料館	原資料	
87	「五条線弾薬製造図」	2	国立歴史民俗博物館	写真	H-1411-12-34
88	ミニエー銃バトロン	10	沼津市明治史料館	原資料	
89	胴乱	1	沼津市明治史料館	原資料	
90	雷管盒	1	沼津市明治史料館	原資料	
91	スナイドル銃	1	板橋区立郷土資料館	原資料	
92	13ドイムハンドモルチール砲	1	板橋区立郷土資料館	原資料	
93	ボンベン弾	1	板橋区立郷土資料館	原資料	
94	四斤山砲	1	白虎隊記念館	写真	
95	四斤山砲の筒先	1	白虎隊記念館	写真	
96	四斤山砲実物大模型	1		原資料	
97	(四斤山砲)榴弾	2	個人	原資料	
98	(四斤山砲)散弾弾子	2	個人	原資料	
エピソード「飯能戦争」その後					
99	辰9月6日付書状	1	大野哲夫氏	原資料	
100	「高麗郡飯能町之景」	1	宮内庁書陵部	写真	各種写真帖 B9-32 No.154
101	『飯能戦誌』	1	当館蔵	原資料	田中家文書 149
102	『説経節「飯能の嵐」』	1	当館蔵	原資料	中村家文書 67
103	振武軍碑(能仁寺)	1		写真	
104	「ああ振武軍」発表会プログラム	1	当館蔵	原資料	昭和41年

★＝東京都指定文化財／☆市町指定文化財

その他の展示

当館では、収蔵品展や特別展のほかにも、文化財の普及啓発や収蔵資料の紹介などを目的として、いろいろな展示をおこなっている。ここでは、それらを紹介する。

第7回

「マイ・コレ。」(マイコレクション展)

期 間 平成23年5月22日(日)～6月19日(日)

開館日数 25日間 展示点数 363点

入館者数 1,741人(1日平均69.6人)

1 趣 旨

「マイ・コレ。」は、市民のコレクションを広く紹介するもので、コレクションのおもしろさやその意義を伝えると共に、新たな入館者層の獲得と特別展示室の有効利用を目的とし、平成19年度から開始した。市民に出品を呼び掛け、審査の結果展示が決定した11件のコレクションを年2回、合計5回行った。その後平成21年度に再度募集し、4件の応募があったため、22年度と23年度に分けて展示した。

今回で7回目であるが、展示の準備や展示期間の確保で課題が生じたため、新たな募集は中断し、今後再開するかどうかは検討していくこととした。

2 内 容

今回は、「木のぬくもり～からくりの世界～」(コレクター：小島文明氏)、「おらぁほうの行灯絵」(コ

レクター：加藤栄子氏)の2件のコレクションを紹介した。

展示資料は、前者が飯能市落合にて雷(玉井守也)が製作している木にこだわった小物入れ、からくり箱など、出品者が魅せられた作品273点、後者は祭りの時に夜の灯りとして立てられる滑稽な絵が描かれた地口行灯で、精明地区を中心に飯能市内、近隣の行灯絵と江戸後期の種本、浮世絵など90点である。

3 関連事業

◎コレクター自身による展示解説

日 時 5月29日(日)

午後1時30分から 小島文明氏

午後2時から 加藤栄子氏

参加者 30人



コレクターによる展示解説(「木のぬくもり」)



コレクターによる展示解説(「おらぁほうの行灯絵」)

駿河台大学野村ゼミ実習展示

「歩く ～飯能を再発見する～」

期 間 平成23年7月3日(日)～7月17日(日)

開館日数 13日間 展示点数 41点

入館者数 944人(1日平均72.6人)

1 趣 旨

飯能市では地元大学である駿河台大学と様々な面で連携した事業を展開している。この展示もその一環で、野村ゼミからの依頼により平成21年度より実施しているものである。将来学芸員をめざすゼミの学生が、学習の一環として企画・準備し、展示の設営まですべて学生たちが担った。

期間中は、学生が常時会場にいて来館者に丁寧に應對していた。

2 内 容

飯能市は市域の約75%が山林であることから、多くのハイキングコースが存在し、人々に親しまれている。さらに森林文化都市を宣言している飯能市は都会では味わえない豊かな自然に恵まれ、文化財も

多く、そのいくつかはハイキングコースに組み込まれている。展示ではいくつかのハイキングコースを紹介し、それを味わえるように配慮した。その中で文化財や美しい自然等に関する情報も紹介した。それらをきっかけに、ハイキングに興味を持ってもらうと同時に、飯能には素敵どころがたくさんあるということを再発見してもらうことを目的とした。そして、最終的には自分の足でその地に訪れて、郷土の良さを実感してもらうよう促した。



展示風景

小学3年生見学対応展示

むかしのくらし -民家の台所再現-

期 間 平成24年1月5日(木)～2月12日(日)

開館日数 34日間 展示点数 53点

入館者数 3,829人(1日平均112.6人)

1 趣 旨

小学3年生は、社会科の郷土学習の中で「昔の人々とくらし」について学ぶこととなっており、その一環として当館の見学が組み込まれている。この展示は、この単元の学習に対応するために、平成13年度より市民学芸員とともに充実したプログラムの開発に取り組んできた。そして平成14年度からは、特別展示室内に民家の土間とカッテを模した空間を作り出し、そこで火のしの体験と副読本や学校では見ることができない昔の道具を児童に見学してもらうこととした。また、この展示を一般の市民にも見ていただけるよ

うミニ展示として位置付けている。さらに、近年すすめられている昔の道具を高齢者の認知症ケアのひとつである回想法に役立てようとする試みを受けて、当館でも、平成20年度より市内や近隣に所在する高齢者の介護施設にも案内を行っている。



展示風景

2 内 容

特別展示室内に農家のカッテと土間の様子を再現した。カッテには囲炉裏を作って周囲に箱膳や茶の間にある家具などを置いた。また土間にはかまど、流し場を設けて関連する道具を展示するとともに、壁面を使って農具などを掛けた。

3 関連事業

◎「昔の遊びを体験しよう！」

日 時 1月14日(日) 午後1時～4時
指導者 当館市民学芸員
会 場 当館特別展示室・展示ホール
内 容 紙芝居、おはじき、ペーゴマなど、昔の子どもたちの遊びを体験する。
参加者 36人

◎「ふるさと飯能の民謡」

日 時 1月21日(土)
午前11時～11時30分
午後1時～1時30分
唄い手 小沢千月 氏
会 場 当館特別展示室
内 容 飯能市出身の民謡歌手である小沢千月氏が平成23年度市表彰を受賞され、その記念

に当館で唄を披露して下さることとなった。小沢氏自身が採譜された「吾野はたおり唄」をはじめ、飯能の仕事唄に親しむ機会とした。

参加者 午前 72人 午後 64人

◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日 時 2月12日(日) 午前10時～午後3時
指導者 当館市民学芸員
会 場 当館特別展示室・休憩コーナー
内 容 小学3年生が当館見学时に体験した火のし・炭火アイロンと石臼を親子で体験する。
参加者 のべ194人



「昔の遊びを体験しよう」

ミニ展示

「ひなまつり」

期 間 平成24年2月18日(土)～3月4日(日)
開館日数 15日間 展示点数 23点
入館者数 3,112人(1日平均207.5人)

1 趣 旨

商店街の活性化を主な目的として、商店の店先や民家の座敷などに雛人形を展示してもらい、観光客や市民に雛飾りと街の散策を楽しんでもらう「雛飾りお宝展 in 飯能」は平成23年度で7回目を迎えた。

年々規模が拡大し、参加する店や家は125箇所となった。

当館では商店街との連携を目的として第1回目から毎年、ミニ展示として参加している。

2 内 容

平成21年度から展示規模を拡大し、収蔵している雛人形をできるだけ多く公開してきたが、中には顔や



展示風景

手の表面にヒビが入ったり、へこみができるなどの劣化が生じ始めた。そこで今回は、資料保存の観点からこれらの雛人形の展示をとりやめることとした。したがって今回は特別展示室のみの展示となり、例年に比べ華やかさに欠けるところもあったが、やむを得ないと考えている。

展示は特別展示室の「むかしのくらし」で設営した囲炉裏と板の間をそのまま残し、その上に雛人形と女兒用の祝い着を展示し、反対側の壁際には各時代の雛人形を展示した。

3 関連事業

期間中、関連事業として「折り紙でつくるおひな様」を、市民学芸員が主体となり実施した。

◎折り紙でつくるおひな様

日 時 3月3日(土)・4日(日)

午前10時～午後3時

講 師 当館市民学芸員

会 場 当館休憩コーナー

参加者 3日42人、4日70人



「折り紙でつくるおひな様」

今月の一品

1 趣 旨

当館では、入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示している。「今月の一品」と題し、その時期にふさわしい資料を展示することで季節感を加えるとともに、収蔵資料の活用を図っている。この展示は平成18年6月から実施しており、「一品」とは一つの品と言う

意味に「逸品」もかけて命名した。

展示した資料の写真と解説はホームページにも掲載しており、ここでは過去に展示したものも見るができるため、収蔵資料の紹介の役割も果たしている。

2 展示資料

今年度展示した資料は一覧表のとおりである。

●展示資料一覧

月	資料名	資料番号等	担当者
4月	精道翁碑の造立費用	小瀬戸村須田家文書 No.544	尾崎
5月	白子窯跡採集資料	考古資料 寄22-1.2	村上
6月	皮まわし	民具 No.1887、1567、4864	柳戸
7月	矢廬窯跡採集資料	考古資料	村上
8月	大鉦(おおなた)	民具 No.668、4868	柳戸
9月	看板「飯能文化編輯所」	吉良憲夫氏寄贈	村上
10月	〃	〃	〃
11月	岩田富之助撮影のガラス板写真	岩田富之助 あ-51、あ-54	柳戸
12月	煙草道具	民具 No.1458-2、1718、3369、5013	村上
1月	半鐘	民具 No.5063	柳戸
2月	オミキスズ・弓矢	民具 No.4836、4842	村上
3月	香時計	民具 No.2149	村上

夏休み子ども歴史教室

昔のおかし「麦こがし」を 作ってみよう!

日 時 平成23年8月4日(木)
午前9時30分～12時00分

対 象 小学生(低学年の方はできるだけ保護者も
いっしょに参加してもらう)

参加者数 20人(小学生15人、保護者5人)

会 場 当館学習研修室・1階搬入路

指 導 者 柳戸信吾(当館学芸員)
市民学芸員(3人)
博物館実習生(4人)
ボランティア研修生(小学校教諭1人)

1. 趣 旨

飯能市域ではまとまった水田は東部の限られた地域にしか見られず、農業では畑作が中心であった。畑作では麦が主要な生産物であったが、現在では大麦はほとんど作られておらず、小麦の作付もわずかに見られるのみである。このため、かつては身近だった麦が生活から遠ざかってきている。

一方、今年の市民学芸員「博学連携」の例会では、石臼をテーマに学習を積み重ねてきた。その中で、大麦を炒って粉にした「麦こがし」があるのを知り、これを夏休み子ども歴史教室として実施することとした。

単に作り方を体験するのではなく、「昔の道具を使って昔ながらの食べ物を作る」こと、「麦を通じて地域の食文化を知る」ことを目的とした。

2 内 容

最初に、麦とはどのようなものか、麦から作られる食べ物、大麦と小麦の違いを説明し、麦を原料と

した食品が身近に多いことに気付いてもらった。次に、昔の麦作りの様子を、写真とその時に使われた道具を示して説明した。

その後、1階の搬入路に移動し、麦の脱穀を体験した。脱穀に使用したのは千歯扱きと足踏み脱穀機である。脱穀した麦は唐箕を使い選別した。子どもたちにとってはどれも初めて触れる昔の道具である。足踏み脱穀機などは最初は恐る恐る踏んでいたが、慣れてくると早く回転することができ、おもしろいように麦の粒がとれることに感心しているようだった。

休憩をはさみ、学習研修室に戻って、麦こがしをつくる。「麦こがし」とは大麦を炒って粉にしたもので、それに砂糖をまぜ、お湯でといて食べる、昔の素朴なおかしである。麦こがしの作り方は次のとおりである。

大麦をフライパンで2～3分炒ると香ばしくなりふくらんではじける。これを「こがし麦」と呼ぶ。こがし麦を石臼で粉にする。一度にたくさん入れると、細かい粉にならないので、少しずつ入れる。ひけた粉は、ふるいにかける。すると細かい粉だけが下にたまり、大きな粒は残る。残った粒はまた石臼に入れて挽く。

できた粉に、好みの量の砂糖を加え、お湯で溶く。お湯の量はやわらかいおもちのようになるくらいがちょうどよい。これをかきまわして、わりばしで食べた。

素朴な味だが、子どもたちはおいしそうに食べていた。また途中の作る過程もとても楽しそうだった。「麦」を見直すきっかけになったと思う。

なお、終了後のスタッフによる反省会で、いっしょうけんめいメモをしている人がいた、話した内容をプリントにして最後に渡せばよかった、などの意見がでたため、麦をつくる一連の説明と麦こがしの作り方をホームページに掲載した。



麦の脱穀



麦こがしに砂糖を加えお湯で溶く

夏休みこどもクラブ

日 時 平成23年7月26日(火)～8月23日(火)
午前9時～午後5時
対 象 市内の小学生
会 場 当館常設展示室・入口前スペース
参加者数 のべ222人

1 趣 旨

夏休み中の子どもの居場所としての社会教育施設がそれぞれの特性を活かして連携することで、より有意義な夏休みを子どもたちに過ごしてもらうことを目的とするもので、当館、中央公民館、子ども図書館が平成16年度より共催で行っている事業である。「居場所づくり」を通して子どもたちの健全育成や地域の教育力の向上に社会教育施設が積極的に寄与するとともに、日ごろ疎遠になりがちな社会教育施設に気軽に親しんでもらう契機になることも意図した。また、公民館・図書館・博物館が隣接している地の利を活かし、連携を深めて事業展開していくきっかけともした。

2 内 容

3館共通のスタンプカードを発行し、期間中に当館や中央公民館、こども図書館の各会場で定められ

たことに参加するとそれにスタンプが1つ押される。20個集めると記念品がもらえるという特典があり、子どもたちに喜ばれた。

当館では、常設展示室内を日替わりで移動する夢馬(飯能市のイメージキャラクター)を子ども達に探してもらった。

夢馬は毎日1問ずつ常設展示室にて展示している資料の名称を子ども達に尋ねており、子ども達が管理室にいる職員に答えを告げると、スタンプを1個押すようにした。また、3館共通のスタンプカード以外に、郷土館専用のスタンプカードも用意し、スタンプの数に応じて、記念品(飯能市域に所在する国指定重要文化財の解説を、トレーディング・カード風に作ったもの)を手渡した。

8月6日と7日には「竹の水鉄砲で遊ぼう」というコーナーを当館入口手前に設置し、市民学芸員が水鉄砲を作る指導をし、それで遊んでもらった。参加者は6日が49人、7日が43人であった。



トレーディング・カード

まゆ玉づくり

日 時 平成24年1月8日(日)
午後1時30分～3時30分
対 象 市内の親子
会 場 当館学習研修室・エントランスホール
参加者数 42人
指 導 者 内野博司氏・内沼須美氏・小熊絢子氏・
内沼春江氏・清水里子氏

1 趣 旨

養蚕の盛んなところでは、小正月や初午などに、繭の増収を祈り米粉で団子を作り、つげの木などの小枝にさして飾った。このときに作った団子を「繭玉」といい、本市域でもかつては広くみることできた行事である。

「まゆ玉づくり」は、この小正月の行事を見直し未来に伝えていくため、まゆ玉を作り、小枝にさして飾

る学習会である。

平成22年度までは友の会の自主事業として実施していたが、平成23年度より郷土館の事業として行うことになった。

2 内 容

米粉を蒸して団子状にした「まゆ玉」を指導者の指導のもと参加者全員で作製、エントランスホールにて展示している猪狩の大櫓に差し込んだミズキ・ツゲの木の枝先に、みかんと共に飾った。



まゆ玉を持って記念撮影

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきた。博物館でも市民との連携が欠かせない時代となった。

当館では、市民参加活動を博物館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とする「交流」活動ととらえている。現在では、定点撮影プロジェクトと市民学芸員がこれにあたり、当館の活動において特色の一つとも言え、力を入れて取り組んでいる。

定点撮影プロジェクト

1 概要

定点撮影プロジェクトは、市民自らが、刻々と移り変わっていく「今」の時代を写真で記録し後世に残していくことを目的として、平成10年度に開始した事業である。

参加者は各地域で決められた地点を定期的に撮影する(地点撮影)。撮影地点は通り・駅前・交差点など昔から写真に撮られているところや変化の激しいところ、橋や学校などの地域の特徴的な建物などである。また、以前は、日常的生活を写真で残すために毎年参加者で設定したテーマに沿った撮影をおこなっていたが、ここ数年は実施していない。

撮影した写真は撮影者がフィルム台帳に内容を記録するとともに、地点撮影の場合には撮影場所、撮影目標、撮影の際の注意点などをまとめた「撮影地点カード」を作成している。地点撮影もテーマ別撮影も日常生活している人でないと本来の生活の様子は撮影できないものであり、地域の変化を示す良好な資料として当館に蓄積されている。

また、撮影した成果を紹介するための写真展を毎年開催している。この写真展の展示作業や解説文の

執筆などは参加者が主体的におこなっており、現在では当館職員がそれをサポートする程度で完成するまでに至っている。この展示は、他の市民に対しても写真記録の必要性を伝え身近な歴史を考えるきっかけを与えるものとなっている。

現在、会員は24人が登録されており、打合会や展示準備には参加できなくても定期的に写真撮影を続けている会員もいる。ただ、会員の高齢化が課題となっており、会員を増やす努力を続けている。また、カメラがフィルムからデジタル主流となってきた状況の中で、今後もフィルム主体で撮影すべきか、デジタ



写真展の展示設営

活動一覧

回	月 日	曜日	種 類	内 容	参加人数
1	5/15	日	打合会	写真展の応募写真確認	5
2	6/12	日	打合会	写真展のタイトル決定、展示写真の選定	6
3	7/2	土	打合会	解説文等の検討・作成、展示する定点撮影写真の選定	6
4	7/10	日	打合会	解説文等の検討・作成	5
5	7/22	金	展示準備	展示設営	2
6	7/23	土	展示準備	展示設営	5
7	11/26	土	打合会	写真展の反省、次年度の写真展の内容検討	6
8	2/12	日	打合会	次年度の写真展展示写真(飯能河原)選定など	5
9	3/10	土	打合会	次年度写真展展示写真選定、定点撮影地点の撮影など	5

合計のべ 45 人

ルに変えた場合、その管理をどうするかなどが大きな課題となっている。

2 活動の概要

今年度の定点撮影プロジェクト写真展では、各家に眠っている貴重な古写真を収集する目的も兼ねて、昭和の思い出の写真を市民から募集して展示するこ

3 定点撮影プロジェクト写真展

第13回

「昭和の思い出」

—私のとっておきの1枚—

期 間 平成23年7月24日(日)～9月4日(日)

開館日数 37日間

入館者数 2,959人(1日平均80.0人)

展示点数 写真70枚(65点)

1 開催趣旨

今年度の定点撮影プロジェクト写真展は、これまでと趣向を変え、市民から昭和の写真を募集して展示する。市民が持っている思い出の写真のうち「これぞ!」と思うとっておきの一枚を応募してもらう。

このような展示を通して、写真に込められた応募者の思い、昭和の生きざまを伝えとともに、市民の眼を定点撮影プロジェクトの活動に向ける、新しい写真の発掘、新会員の呼び込みなどの効果も同時に期待し開催する。

2 展示構成

第1部「昭和の思い出」と第2部「各地の定点撮影」の2部構成とした。

とした。平成23年2月の広報紙で募集をかけ、締切の4月末日までに22人から応募があった。これら写真の解説や展示構成を検討し、定点撮影プロジェクト写真展として展示した。

地点撮影は4～5月にかけて各自の担当箇所の撮影を行った。

第1部では市民からの応募写真を「風景」「戦争」「学校」「祭り・行事」「生活・文化」にジャンル分けし、各ジャンルでは年代の古い順に展示した。展示写真は50枚。

第2部では、これまでの定点撮影の成果の中から、各地区2枚程度、代表的な地点の写真を選び合計20点の写真を展示した。

3 その他

展示写真の一部を10月6日(木)～11月9日(水)の期間、西武飯能ペペの4階ホール前で展示した。



展示風景

市民学芸員

1 これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。ボランティアの登録制度を有している博物館は多いが、当館の場合は教育普及や整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点が特徴である。

まず第Ⅰ期市民学芸員の養成は、平成12年1月の「特別展企画運営参加型」で、21人が参加した。講座の受講者は、同年秋に予定されていた特別展「飯能、戦後のくらし」の企画段階から参加し、また体験教室や展示解説などの運営にも携わった。

第Ⅱ期は、平成12年3月の「博学連携事業参加型」で、30人の参加を得て同年7月の夏休み親子歴史教室及び翌年1・2月の小学3年生見学対応に従事した。その結果、当館が提供する小学3年生の「むかしのくらし」の学習プログラムは、質、量ともに飛躍的に充実し、それ以後の小学3年生の見学対応はこの体制をベースに行われている。

第Ⅰ期、Ⅱ期と教育普及分野での養成であったが、第Ⅲ期は西川林業の道具の基礎調査を行っていくもので、平成16年2月から養成が開始された(「民俗調査参加型」)。この調査の目標は、当館にとって長年の懸案であった西川材の生産に関わる道具を県指定文化財とすることにより、新たに2人が市民学芸員として認定された。この養成講座には、Ⅰ・Ⅱ期の市民学芸員も参加したため一体的に活動することとなり、結果的には「民俗調査参加型」の新たな市民学芸員も小学3年生見学の対応にも従事してもらうことになった。

しかし、市民学芸員活動における参加人数の減少が、小学3年生見学対応の受け入れ体制に影響を及ぼし始めたため、平成19年度には博学連携事業参加型としては2度目、通算ではⅣ期となる市民学芸員の養成講座を実施し、17人が新たに認定された。第Ⅳ期市民学芸員が加わったことにより、小学3年生見学対応は新たなプログラムが追加されるなど、内容の充実がなされたが、依然として活動終了を表明する者が後を絶たず、人数の減少が、小学3年生見学対応の受け入れ体制に影響を与えることが懸念された。このため、平成22年度に再度博学連携事業参加型の

市民学芸員をⅤ期として養成し、新たに11人が市民学芸員として登録され、博学連携事業参加型の市民学芸員は現在32人が活躍している。

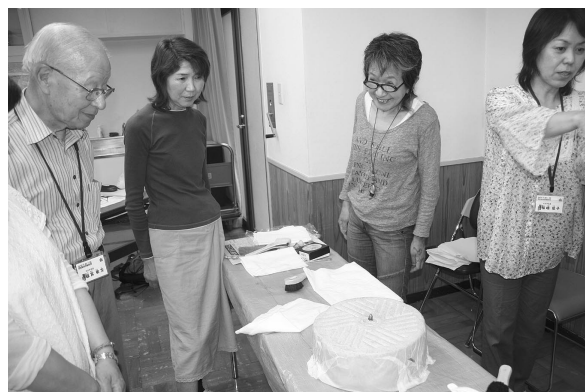
一方、平成22年度には新たに、「古文書整理型」として第Ⅵ期の市民学芸員を養成した。これは当館に保存されている地域史料のうち、古文書については多くが仮目録が作成されているだけで、目録が冊子の形で公開されている史料群は非常に少なく、なかなか利用が進まない。収蔵史料の価値を高め、市民の学習需要を喚起していくためには、史料整理を進め目録を刊行することと、翻刻活用して地域史料の必要性を理解してもらうことが不可欠である。以上の事柄を念頭に置き、市民が学習活動を行いながら、その成果が当館の課題解決にもつながっていくことを目的としたものである。養成の結果、15人(うち6人は第Ⅱ～Ⅳ期の市民学芸員として活動中)が登録され、活動を開始した。

2 活動の概要

普段の活動は博学連携型と古文書整理型に分かれて活動している。そのほかに合同で、6月18日には研修会「遠藤新が設計した旧平岡レースの建物」(講師 井上祐一氏 文化学園大学短期大学部教授、参加者18人)、11月23日には館外研修として東京都江戸たてもの園の視察(参加者23人)を行なった。

◎博学連携事業参加型の活動

博学連携参加型の活動の中心は、当館の博学連携事業を代表する「小学3年生見学対応」である。毎年、1月半ばから2月半ばまでの約1ヶ月間、土・日曜日と休館日をのぞきほとんど毎日行われており、その



6月例会・研修会(講師：石野律子氏)

対応を市民学芸員が担っている。

小学3年生見学対応の学習プログラムは、第Ⅱ期市民学芸員養成後に考案された形が基礎となっている。その後、第Ⅳ期市民学芸員により新しいプログラムが追加され、毎年、少しずつ改善を図るなどして現在に至っている。このように、当館における小学3年生見学対応は、市民学芸員の存在抜きには実施不可能であり、博学連携事業における市民学芸員の存在は非常に大きい。

当館では、毎年度末の定例会にて市民学芸員と協議し、次年度の活動方針を決めているが、平成23年度は小学3年生見学対応以外の活動としては、民俗資料、特に石臼について理解を深めることにし、講義を

2回行った。また、石臼に関係する昔のおやつとして麦こがしに着目し、その試作も行った。麦こがしは夏休み子ども歴史教室で作ることにしたため、市民学芸員には夏休み子ども歴史教室運営の補助を依頼した。

部会活動としては、部会A(休日の体験学習プログラム)が活動を継続しており、元々の部会Aのメンバーに、体験学習プログラムの実施に興味を持つ市民学芸員が加わり、事業を実施している。

平成23年度は、8月6日・7日に4回目となる「竹の水鉄砲を作ろう」を実施した。その他には、新たに冬に行う体験学習プログラムを実施したいということで3回の会合を持ち、1月14日の「昔の遊びを体験しよう」の実施にこぎつけた。

市民学芸員(博学連携)活動一覧

回	活動日	曜日	開始時刻	テーマ	講師・担当	内 容	参加人数
1	4/21	木	9:30	4月例会	柳戸・尾崎・村上	平成23年度の活動について	17
2	5/21	土	9:30	5月例会・研修会	宮本八恵子氏 (日本民具学会理事)	講義「民具を知る、民具を伝える、民具で伝える」	18
3	6/14	火	13:30	6月例会・研修会	石野律子氏(神奈川大学大学院・武蔵野美術大学非常勤講師)	講義「石臼について～三鷹市岸水車の民具調査より～」	13
4	7/21	木	9:30	7月例会・研修会	柳戸・村上	講義「「麦こがし」の試作」	11
5	8/4	木	9:30	夏休み子ども歴史教室運営	柳戸・村上	小学生対象の夏休み子ども歴史教室「昔のおかし「麦こがし」を作ってみよう!」の運営補助	3
6	8/6	土	9:00	夏休み子どもクラブ運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	11
7	8/7	日	9:00	夏休み子どもクラブ運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	9
8	8/21	日	9:30	8月例会	柳戸	「常設展示室の改装について」協議	15
9	9/21	木	9:30	9月例会	柳戸・村上	小学3年生見学対応について	7
10	10/21	金	9:30	10月例会・研修会	尾崎／柳戸・村上	特別展「飯能炎上」展示解説／小学3年生社会科見学対応プログラム改善内容の検討	15
11	11/15	火	13:30	11月例会	柳戸・村上	小学3年生社会科見学対応プログラム改善内容の検討	12
12	12/8	土	9:30	12月例会	柳戸・尾崎・村上	小学3年生見学対応の担当について	18
13	12/15	木	9:30	「むかしのくらし」展展示	柳戸	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展設営	8
14	1/8	日	13:30	まゆ玉づくり	内沼須美氏・村上	「まゆ玉づくり」参加	5
15	1/14	土	13:00	昔の遊びを体験しよう	村上	「昔の遊びを体験しよう」運営	12
16	2/12	日	9:30	火のし・炭火アイロン／石臼体験	村上	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展付帯事業運営	11
17	2/15	水	9:30	2月例会	柳戸・尾崎・村上	小学3年生見学対応の反省	6
18	3/3	土	9:30	「折り紙で作るおひなさま」	尾崎	「ミニ展示ひなまつり」関連事業「折り紙で作るおひなさま」の運営	4
19	3/4	日	9:30	「折り紙で作るおひなさま」	村上	「ミニ展示ひなまつり」関連事業「折り紙で作るおひなさま」の運営	4
20	3/17	土	9:30	3月例会	柳戸／村上	来年度の活動について	13

合計のべ 212 人

部会A 「休日の体験学習プログラム」活動一覧

回	活動日	曜日	開始時刻	内 容	参加人数
1	6/18	土	13:30	「竹の水鉄砲を作ろう」昨年度材料の確認・今年度の活動について検討	8
2	7/3	日	9:30	夏休み子どもクラブで製作体験する水鉄砲の試作・材料準備	8
3	9/21	木	11:30	今後の活動について検討	6
4	11/15	火	15:30	冬の体験学習プログラム「昔の遊びを体験しよう」の実施について意見交換	9
5	12/8	木	8:30	「昔の遊びを体験しよう」の内容について意見交換	10

合計のべ 41 人

◎古文書整理型(第Ⅵ期)の活動

「古文書整理(参加型)型」の市民学芸員は、平成21年度に養成された第Ⅵ期にあたる。目標としては、当館で収蔵している古文書を整理したり、翻刻したりする作業に、当館学芸員と共に参加し地域への理解を深めてもらうことにある。

その作業を行っていくためには、くずし字が解読でき古文書の内容が理解できなければならない。それを習得してもらうための実務実習を平成23年3月から開始することとした。ただ、活動の場となる学習研修室は、既に古文書同好会、古文書勉強会などの活動でほとんど休日に空きがなかったため、平日に活動することを基本とした。

ただし、第Ⅵ期認定者のうち、休日の活動を希望する人が当初5名いたので、その方は平成22年度の古文書講座受講生によって立ち上げられ、平成22年9月より活動を開始していた「古文書を読む会」に参加することを実務実習として位置づけた(当該講座は、第Ⅵ期市民学芸員の専門研修に位置づけられ、共に受講していたため)。

こうして、古文書整理型の実務実習は、平日グループと休日グループに分かれて開始された。内容は、当館所蔵文書の講読と、その背景を理解してもらうための文献輪読の2つである。その際、どちらのグループもテキストの古文書は同じものを使うこととし、隔月で2つのグループが一同に会する機会を設けることとした。

ところが休日グループに所属していた方々は、当初より「古文書を読む会」への出席が少なく、当該年度前半にはほとんど実務実習への参加がなくなってしまった。当館でのフォローが十分行き届かず反省すべき点である。

当館としては、現役で働いているような若い世代の方にも市民学芸員活動に参加してもらいたいと考えている。しかしそうすると休日に活動が限定されてしまい、学習活動を継続して行うには難しい面がある。また、仕事の一線から退いた方々は平日での活動を希望することが多い。そこをどう調整するかは、古文書整理型にとどまらず、市民学芸員制度全体の課題でもある。

なお、平日グループの実務実習は、当館の歴史担当学芸員である尾崎が指導者となり、別表のとおり研修会も含め18回実施し、のべ185人が参加した。



12月・館外研修会(八王子市郷土資料館)

市民学芸員(古文書整理)活動一覧

(会場) 当館学習研修室(ただし、14・15回目は中央公民館)

回	活動日	曜日	時間	内 容	参加人数
1	4/14	木	10:00	4月例会①(天明5年矢廐村明細帳講読・渡辺尚志『百姓たちの江戸時代』輪読)	9
2	4/28	木	10:00	4月例会②(天明5年矢廐村明細帳講読)	11
3	5/12	木	10:00	5月例会①(文政5年矢廐村五人組帳講読・渡辺尚志『百姓たちの江戸時代』輪読)	9
4	5/26	木	9:30	5月例会②(矢廐地区巡見)	10
5	6/9	木	10:00	6月例会①(文政5年矢廐村五人組帳講読・渡辺尚志『百姓たちの江戸時代』輪読)	9
6	6/30	木	10:00	6月例会②(文政5年矢廐村五人組帳講読・渡辺尚志『百姓たちの江戸時代』輪読)	10
7	7/14	木	10:00	7月例会①(文政5年矢廐村五人組帳講読)	11
8	7/28	木	10:00	7月例会②(文政5年矢廐村五人組帳講読)	10
9	9/8	木	10:00	9月例会(文政5年矢廐村五人組帳講読)	11
10	10/27	木	10:00	10月例会(飯能戦争関係史料講読・特別展「飯能炎上」展示解説)	10
11	11/10	木	10:00	11月例会(文政5年矢廐村五人組帳講読)	12
12	12/8	木	12:30	館外研修会(八王子市郷土資料館特別展「八王子の絵図」など見学)	12
13	1/12	木	10:00	1月例会①(文政5年矢廐村五人組帳講読・高橋敏『江戸の訴訟』輪読)	10
14	1/26	木	14:00	1月例会②(文政5年矢廐村五人組帳講読・高橋敏『江戸の訴訟』輪読)	9
15	2/9	木	14:00	2月例会①(文政5年矢廐村五人組帳講読・高橋敏『江戸の訴訟』輪読)	9
16	2/23	木	10:00	2月例会②(文政5年矢廐村五人組帳講読・高橋敏『江戸の訴訟』輪読)	11
17	3/8	木	10:00	3月例会①(文政5年矢廐村五人組帳講読・高橋敏『江戸の訴訟』輪読)	11
18	3/22	木	10:00	3月例会②(文政5年矢廐村五人組帳講読・高橋敏『江戸の訴訟』輪読)／来年度の活動内容協議	11

合計のべ 185 人

博物館と学校教育との連携は、学校での「総合的な学習の時間」の導入や「地域学習」の重視から、多くの博物館で取り組まれている。当館では、小学生の見学対応、小中学校社会科研究展、出張授業、中学生職場体験の受け入れなどを実施している。このほか、学校への資料の貸出や、地域学習の一環として児童・生徒がグループ単位で郷土館を利用することなどもあり、当館と小・中学校との距離が縮まりつつある。

しかし、近年の「総合的な学習の時間」の授業時間の削減などから、出張授業や当館に来館しての学習は減少傾向にある。

小学3年生見学対応

市内の小学3年生が社会科の「昔の人々とくらし」の単元を学習する時には、例年1月から2月にかけて当館を見学している。授業は副読本『はんのうし』に基づいて行なわれるが、平成23・24年度版から、この部分が当館の見学プログラムに準拠した形に改められた。市民学芸員がどのような存在であるかこの中で説明され、当館への見学が市内の小学校ですっかり定着したことがわかる。

さて、当該年度においても9月下旬に各学校宛てに見学希望日や人数などを把握するための調査票を配布し、特別展開始後の10月下旬から11月上旬にかけて各学校との打合せを行い、見学内容や移動手段などについて協議した。

児童の移動については、平成21年度より市のバス2台を中心に、足りない部分を民間から乗合バスを借り上げて行っていた。ところが当該年度は市のバスが基本的に1日1台しか動かさないことになったため、同じ日に人数の少ない2つの学校を一緒に見学してもらうことが難しくなった。そのため前年度に比べ、見学を受け入れる日数が全体で3日増えている。

当日は、クラスを複数の班に分け、同時並行で行われる3つのプログラムをそれぞれが異なる順序で

廻り(1つのプログラムは通常40分)、決められた時間枠の中で、すべてのプログラムが体験できるように予定を組んでいる。

3つのプログラムの内容は次のとおりである。

① 常設展示見学

学校には3つの説明・体験のうち、2つを選択してもらっている。1つは常設展示の「乱世に生きぬく(中世)」のコーナーにおける長光寺雲版と常楽院の軍荼利明王立像を中心とした国指定重要文化財の説明、2つ目は「山地のくらし(民俗)」のコーナーにおける西川材(林業)に関する説明、3つ目が「平地のくらし(民俗)」のコーナーにおける、昔の子どもの遊びの解説と紙芝居の体験である。

② むかしの道具さがしクイズ

これは、学習研修室に20点の民具を4箇所に分けて置き、児童には最初にそれら全てを観察したり触れたりした後、その中から「洗濯」、「炊事」、「学校生活」、「暖房」に使う道具を見つけるというクイズ形式の学習である。最後に児童に正解を伝え、道具の使い方を説明する。

③ 体験学習

石臼と昔のアイロンの体験を行う。

石臼体験は休憩コーナーに設置した石臼台で児童が



むかしの道具さがしクイズ



昔のアイロン体験

米とこがし麦(炒った大麦)を挽いてもらい粉にする。前年度までは大麦ではなく大豆を用いていたが、大豆だと油分が多く石臼の目が詰まってしまう、粉があまり出てこなくなってしまう。そこで市民学芸員の例会で検討を重ねた結果、炒った大麦を挽いて麦こがしをつくることとした。

昔のアイロンの体験では、児童は特別展示室に農家の台所を再現した「民家の台所」の板の間に上がり、火のしと炭火アイロンを体験する。アイロン体験を待っている時間は、土間部分にある水場やかまど、昔の農具などの見学や背負梯子や背負かごの体験などを自由に行うことができる。

小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	常設展示選択	備 考
1	1/17(火)	東吾野小	1	11	市バス	9:06	11:39	153	11	文化財・紙芝居	
2	1/18(水)	精明小	1	28	市バス	9:07	11:43	157	11	西川材・紙芝居	
3	1/19(木)	美杉台小	2	74	徒歩	9:05	11:51	166	13	文化財・紙芝居	
4	1/20(金)	南高麗小	1	22	市バス	9:00	11:39	159	13	文化財・紙芝居	
5	1/24(火)	名栗小	1	16	市バス	9:25	11:59	150	9	西川材・紙芝居	
6	1/25(水)	加治東小	1	26	市バス	9:02	11:39	152	9	文化財・紙芝居	
7	1/26(木)	加治小(1)	1	34	市バス・市庁用車	9:03	11:39	156	12	文化財・紙芝居	2日間に分けて実施
8	1/27(金)	加治小(2)	2	69	市バス・市庁用車	9:09	11:30	141	12	文化財・紙芝居	2日間に分けて実施
9	1/31(火)	富士見小	2	71	市バス・借上乗合	9:12	11:50	158	11	西川材・紙芝居	
10	2/1(水)	原市場小	2	49	市バス	9:15	11:50	155	10	文化財・紙芝居	
11	2/2(木)	飯能一小(1)	2	65	徒歩	9:05	11:47	162	12	文化財・紙芝居	2日間に分けて実施
12	2/3(金)	飯能一小(2)	2	65	徒歩	9:04	11:45	161	9	文化財・紙芝居	2日間に分けて実施
13	2/7(火)	双柳小	2	71	市バス・借上乗合	8:53	11:44	171	11	西川材・紙芝居	
14	2/9(木)	飯能二小	1	14	市バス	9:11	11:47	156	10	文化財・紙芝居	
		西川小	1	7	市バス	9:13		154		文化財・西川材	

合計 13校 合計児童数 622人 市民学芸員のべ人数 153人

飯能市小・中学校社会科研究展

1 趣 旨

小中学校では、比較的時間に余裕がある夏期休業中に社会科の自由研究を課すところが多い。ところが、理科や技術家庭、美術科においては作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているが、社会科においては同様の機会がないのが現状である。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を公共の場で市民に公開し、評価していただく場を設けることは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より行っているのが本事業である。

当初は中学生だけが出展していたが、平成13年度より対象を小学生まで広げた。例年、作品を出した児童生徒には、賞状と参加賞を渡しているが、平成22年度からは出展された研究の中から、館長賞及び学芸員賞を選ぶこととした。

また、前年度には研究の内容が他の教科にあたると考えられるものや、資料を綴じただけで研究とはいえない作品なども出展されるなどの課題を見られたため、共催団体である社会科主任会で検討する場をもった。その結果、社会科の研究に該当するものかどうかを学校で判断するとともに、ある程度のレベル以上のものを学校で選んで出展するように、各校の児童生徒数に応じて出展上限数を決めることとした。この結果、23年度の社会科研究展はレベルが高くまた学校ごとの展示点数に偏りが少ないものとなった。

2 展示概要

期 間 平成23年9月10日(土)～25日(日)

開館日数 13日間

入館者数 1,011人(1日平均77.8人)

展示点数 小学生105点(108人) 中学生 34点(34人)

※特別賞の基準は以下のとおり。

○館長賞

学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1研究ずつ。

○学芸員賞

- ・地域を対象としている
- ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
- ・児童・生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
- ・調査結果がわかりやすくまとめられている

以上に該当する作品で小・中学生合わせて4点まで。



展示風景

出張授業

市内の小中学校からの依頼により、当館学芸員が学校に出向いて授業を行う出張授業も、学校と連携した重要な事業である。児童・生徒が地域学習をする中で、地域のことを専門に調査研究している学芸員から話を聞くことは、子どもたちの関心を高める効果大きい。

授業の内容としては、地域学習のための導入として地域の歴史の概要や調べ方を説明するものが多い。また、今年度は特別支援学級に対する授業、中学生

の修学旅行の事前学習としての授業が新しくあった。毎年同じテーマでの授業を求められるものもあるが、内容については児童・生徒の反応等を参考にしながら、教材を替えるなどして適宜改善に努めている。

課題としては依頼する学校が偏っていること、中学校からの依頼が比較的少ないことなどが上げられる。この点については教員の研修会や校長会などの場でできるだけ利用を促進するように呼びかけるなどの対策をしているが、大きな改善には至っていない。

出張授業一覧

No.	実施日	学 校 名	学年	科目	テーマ	内 容	担当	人数
1	5/24(火)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成。	村上	70
2	6/1(水)	原市場中学校	特別支援学級	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器の実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	4
3	6/28(火)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の焼成体験	5月24日に各自製作した土器を校庭で焼成する指導をした。	村上	70
4	9/13(火)	加治小学校	3	総合	「加治のじまんを見つけよう」	加治地区の古い写真や地域にある石仏、寺社などについて解説した。	村上	103
5	10/24(月)	第一小学校	4	社会	宮沢湖の開発について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。	柳戸	113
6	11/1(火)	第二小学校	4	社会	宮沢湖の開発について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。	柳戸	17
7	11/24(木)	加治中学校	2	総合	「私が飯能の街を紹介したら・・・」	修学旅行(京都)の事前学習会として、飯能の特徴的な建物や産業、食物などについて説明する。	尾崎	140
8	12/9(金)	美杉台小学校	4	社会	宮沢湖の開発について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。	柳戸	97
9	1/18(火)	原市場小学校	3	総合	「原市場のむかしむかし」	昔の原市場の様子、江戸時代の家族について説明した。	尾崎	49
10	2/8(水)	美杉台小学校	3	総合	「飯能市の文化財」	総合学習で、当該テーマを選んだ児童に対し、飯能市の指定文化財について解説した。	尾崎	13

合計のべ 676 人

来館しての学習

当館の学芸員が学校に出向いて行うのが出張授業であるのに対し、それとは逆に、学校の児童・生徒が来館し学習することもある。その代表的なものは毎年1～2月に実施している小学3年生見学対応であるが(30頁参照)、それ以外にも下表のような学習

があった(調べ学習等のために数人で来館した見学やレファレンス等は除く)。

来館しての学習は、出張授業と比べるとより多くの収蔵資料や展示資料を活用できる利点がある。

来館しての学習

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内 容	担当	人数
2	10/18(火) 午前	南高麗 小学校	3	社会	飯能市の林業について	シンボル展示「筏」および常設展示の「山のくらし」を使って西川材の歴史を説明し、西川林業の道具についてのクイズを行った。	尾崎・村上	22
1	10/18(火) 午後	原市場 小学校	3	社会	飯能市の林業について	シンボル展示「筏」および常設展示の「山のくらし」を使って西川材の歴史を説明し、西川林業の道具についてのクイズを行った。	尾崎・村上	49
3	11/25(金) 11/30(水)	第一 小学校	3	社会	西川材について	シンボル展示「筏」および常設展示の「山のくらし」を使って西川材の歴史を説明した。	尾崎・村上	132

合計 203 人

中学生社会体験チャレンジ

飯能市内の中学校では、1年生の生徒が、仕事の厳しさや働く喜びなどを学ぶために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をする「中学生社会体験チャレンジ事業」を実施している。

当館でも毎年生徒を受入れ、博物館の業務を体験

してもらっている。外から見ただけではわからない裏方の作業を体験することにより、その大変さや喜びを実感してもらうだけでなく、当館の役割や学芸員の仕事内容を伝えることにも役立っている。

中学生社会体験チャレンジ受入

No.	実施日	学 校 名	人数	内 容
1	11/16(水)～11/18(金)	加治中学校	4	館内外の清掃、名栗資料室の民具整理など
2	12/6(火)～12/8(木)	飯能西中学校	3	館内外の清掃、小学3年生見学用学習ノート作成、名栗資料室の民具整理など
3	1/24(火)～1/26(木)	飯能第一中学校	3	館内外の清掃、小学3年生見学対応補助、信仰関係資料整理など

合計 10 人

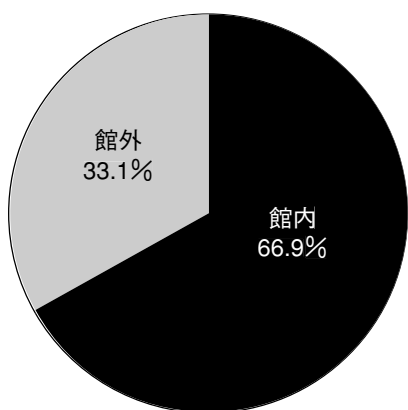
収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

当館では、民具、古文書、古写真やビデオ、書籍などの飯能市に関係するものを中心に様々な資料を収蔵している。これらの資料は展示会や講座、学習会などに利用するだけでなく、資料を傷めない範囲で市民や団体等に利用していただいている。利用の方法としては館内での閲覧と館外への貸し出しがある。平成23年度は124件の申請があった。

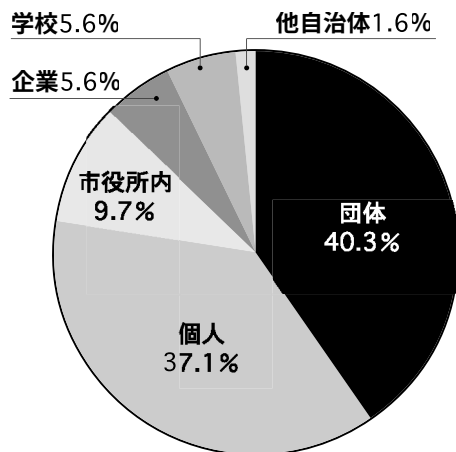
利用者の内訳を見ると、これまでは個人による調査研究や地域学習のための利用が最も多かったが、今年度は団体の利用がこれを超えた。これは古文書同好会や古文書勉強会などの館内でのサークルでの利用やその他団体の利用が増えてきたことによる。また市役所内他部署での利用が例年に比べ多く、市役所内部で当館の存在意義が意識されてきた結果ともとれる。しかし、学校での利用は依然少なく、これに対しては様々な機会を通じ利用の促進を働きかけていきたい。

利用資料の種別では古文書類が最も多く、これは先にあげた古文書同好会、古文書勉強会といったサークル活動のテキストとして使用されているためだが、それ以外に平成20年度に『武蔵国高麗郡矢廐村中村家文書目録』を刊行してからは、中村家文書の利用が増えている。目録の刊行が利用の促進につながる事例と言えよう。民具、写真の利用がこれに次ぐ。

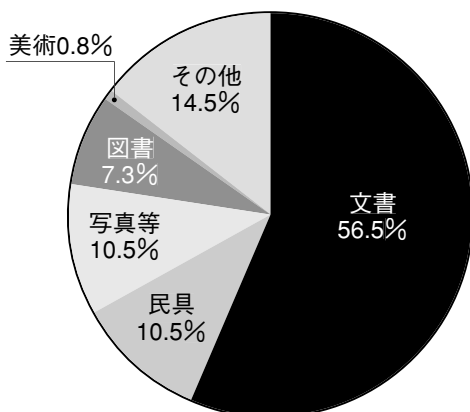
◎利用方法別内訳



◎利用者別内訳



◎利用資料種別内訳



平成23年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	CD南高麗音頭	1	みんなネットワーク	曲の聴取	4/1
2	須田家文書「乙巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/2
3	豊住三芳家文書「日記」、湯の沢観音堂文書「若者議定所」	2	個人	出版物への写真掲載	4/5
4	須田家文書「乙巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/21
5	須田家文書「乙巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/23
6	堀越家文書「夏物切本」ほか	4	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	4/24
7	『埼玉の館城跡』	1	個人	研究	4/24
8	「飯能村絵図」(レプリカ)	1	個人	社会科の授業の自由研究	5/3
9	中村家文書「乍恐以書付御訴奉申上候」	1	個人	研究	5/7~5/8
10	中村家文書「請取申金子之事(亥年貢請取)」ほか	24	個人	研究	5/7
11	中村家文書「武州高麗郡矢風村名寄帳」ほか	5	個人	研究	5/7
12	須田家文書「丁巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/7
13	平沼家文書「婚礼帳」ほか	14	個人	研究	5/7
14	中村家文書「屋鋪御水帳」ほか	14	個人	研究	5/8
15	中村家文書「副区長布達書控」ほか	17	個人	研究	5/8
16	加治村役場文書「神明明細帳」ほか	34	個人	研究	5/8
17	須田家文書「第訓」ほか	19	個人	研究	5/8
18	浅見家文書「差上申一札之事」ほか	23	個人	研究	5/8
19	『迅速図』	1	個人	研究	5/12
20	所蔵絵画カード(簿冊)	6	市民参加推進課	絵画展示のため	5/12~5/31
21	中村家文書「神社氏子書上正誤願」ほか	8	個人	研究	5/19
22	「優良林業地シリーズ8 西川林業」(スライド)	1	個人	調査	5/21~9/1
23	須田家文書「乙巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/21
24	堀越家文書「御通 大正10年」ほか	2	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	5/22
25	「武州高麗郡矢風村川絵図」	1	財団法人東京大学出版会	『絵図学入門』本文挿図	5/20
26	加藤家文書「高反別帳」ほか	63	個人	研究	6/1~6/30
27	須田家文書「丁巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/4
28	須田家文書「天保15年 宗門人別御改帳并小前印鑑控」	1	古文書を読む会	学習テキスト作成	6/8
29	須田家日記「嘉永元年 戊申歳日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/10
30	算盤・「建物棟上記念」(写真コピー)	2	県立飯能高等学校教諭	授業の教材	6/14~6/28
31	河原町絵図面・久下分村公図(データ)	2	個人	研究	7/13
32	堀越家「銘仙御買置品通」ほか	8	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	6/19
33	小島喜八郎絵画「旧市役所」ほか	23	市民参加推進課	市民活動センターオープン記念絵画展	6/30~7/15
34	『埼玉県行政史 第一巻』ほか	63	個人	研究	7/1~8/15
35	須田家文書「乙巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/25
36	『村誌(岩瀬村ほか6ヶ村)』(コピー)ほか	8	個人	調査	6/25
37	所蔵絵画カード(小島喜八郎)ほか	2	市民参加推進課	絵画展の参考資料	6/29~7/14
38	写真資料カード・そり(民具)ほか	229	個人	八王子市史の参考資料調査	7/1
39	特別展「名栗の歴史」にて作成した武州一揆のパネル	4	飯能市観光協会名栗支部	名郷味市にて掲示	7/1~8/157/5
40	須田家文書「乙巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/3
41	中村家文書「高割改帳」ほか	2	個人	レポート作成	7/6
42	堀越家文書「織物製造業者に対する注意書」ほか	13	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	7/10

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
43	須田家日記「乙巳 萬用日記録」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/16
44	まゆ玉飾りの写真	5	埼玉県県民生活部広聴広報課	職員用HPにて画像を掲載	8/1
45	石臼ほか	3	一休さん	地域内交流	8/17～8/19
46	カセットテープ「木挽歌・筏歌」ほか	2	みんなネットワーク	曲の聴取	8/5～8/13
47	写真「父の出征」「加藤上等兵の出征」ほか	4	飯能ケーブルテレビ株式会社	番組内で使用	8/8～9/2
48	写真データ「赤ちゃんとテレビ・昭和36」ほか	24	国分寺 ジュニア ミュージックシアター	舞台の背景として映写	9/1
49	『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』	1	飯能市立第二小学校	郷土学習資料編集	8/12
50	堀越家文書「織貸持出」ほか	4	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	8/21
51	中村家文書「矢嵐村地租改正字限切絵図綴(拾八～廿八番)」	33	個人	研究	8/28
52	浅見家文書「一札之事」ほか	3	個人	研究	8/28
53	西村家文書「御水帳並写預り証文」ほか	11	個人	研究	8/28
54	脱穀機、唐箕	3	はんのう市民環境会議	稲の脱穀体験	10/16～10/23
55	半田家文書「大山講中連名帳」ほか	11	個人	研究	9/14
56	消防関係史料No.15-1401ほか	112	個人	研究	9/24
57	小川家文書「昭和22年8月1日飯能警防団解散式並二消防団結成式メモ」ほか	15	個人	研究	9/16
58	須田家文書「嘉永元年 戊申歳日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/17
59	写真「飯能第一小学校」	1	個人	冊子に掲載	9/27
60	中村家文書「地引帳」ほか	2	個人	研究	9/23
61	DVD「奥武蔵“みんな”物語」	1	個人	個人で視聴	9/25～10/9
62	堀越家文書「大正9年～年賀状発送」	1	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	9/25
63	都市計画図(昭和35年複写) ほか	3	飯能市主要道路整備推進課	説明会資料	9/26
64	須田家文書「久留里 戊申歳日記 瀬戸家」	1	古文書同好会	学習会テキスト	10/1
65	金子家文書「消防組規約並人名簿」	1	個人	研究	10/7
66	中村家文書「水門御修羅金割預り帳」ほか	37	個人	研究	10/8
67	写真「飯能焼」	1	駿河台大学	学生向けニュースに掲載	10/13～12/2
68	お囃子のお面	10	飯能市市民活動センター	展示	10/19～11/8
69	須田家文書「戊申歳日記」	1	古文書同好会	学習会テキスト	10/15
70	堀越家文書「絹綿撚糸之通」ほか	2	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	10/16
71	唐箕、脱穀機	3	はんのう市民環境会議	稲の脱穀体験	10/16
72	田中家文書「角子君甲府へ御遺の件不宣敷儀-付書状」ほか	15	個人	研究	10/8
73	『日本民俗大辞典』『民俗茶ばなし』ほか	4	個人	研究	10/19
74	シンボル展示 筏	1	個人	ビデオ作品を投稿(館内にて撮影)	10/20
75	防空頭巾、雑のう、帽子ほか	7	飯能市立東吾野小学校	授業の教材	10/25～11/12
76	シンボル展示 筏、常設展示室 広告塔	2	出張！なんても鑑定団 IN 飯能実行委員会	TV放送のため(館内にて撮影)	10/26
77	須田家文書「弘化3年 萬用日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	10/28
78	カセットテープ「飯能音頭2005」	1	個人	試聴、楽譜・歌詞カードのコピー	10/29～11/10
79	須田家文書「戊申歳日記 久留生 瀬戸家」	1	古文書同好会	勉強会テキスト	11/5
80	『調べてみようふるさと 飯能・加治』ほか	3	個人	小学校での社会科学習	11/6
81	古写真「しら出し」	1	株式会社 ネクサク	TV放送(画像データ使用)	11/8
82	カセットテープ「西川音頭」	1	個人	踊りの参考にする	11/8～11/22
83	縄なえ機	1	飯能市立精明小学校	児童用郷土資料作成	11/9
84	加治村役場文書「村会書類綴込」	2	個人	研究	11/11

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
85	写真フィルム「大河原八耳堂絵馬「賽・花札に錠図」	1	株式会社 小学館	印刷の写真原稿	11/23～1/23
86	カセットテープ「西川音頭(太鼓入)」	1	白獅子	踊りの伴奏曲の参考資料	11/16～11/25
87	建設工事(機械設備工事)施工図	1	宇野設備工業株式会社	空調設備改修の検討	12/2～12/16
88	DVD「奥武蔵“みんなよう”物語」	1	個人	郷土の民謡を知る	12/2～12/27
89	DVD「奥武蔵“みんなよう”物語」	1	飯能の“みんなよう”保存会	説明用資料	12/2
90	レコード「あゝ振武軍」	1	飯能の“みんなよう”保存会	学習会資料	12/2
91	平鍬、三本鍬、スコップほか	6	飯能市立美杉台小学校	授業の教材	12/9～12/13
92	『埼玉県行政史第1巻』、加藤家文書「地券取調書御同関係綴」ほか	16	個人	研究	11/14～12/25
93	建設工事(機械設備工事)施工図	1	宇野設備工業株式会社	空調設備改修の検討	12/9～12/16
94	須田家文書「辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	12/13
95	須田家文書「辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	12/14
96	堀越家文書「肉筆図案」ほか	10	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	12/18
97	古写真「南川小児童記念」ほか	15	文藝飯能編集委員会	文芸飯能32号掲載写真の検討	12/25
98	古写真「坂石町分の展望」ほか	13	文藝飯能編集委員会	文芸飯能32号に掲載	12/25～1/31
99	写真「吾野の街、駅近く」ほか	2	文藝飯能編集委員会	文芸飯能32号に掲載	1/5～1/31
100	須田家文書「戊申歳日記 久留生瀬戸家」	1	古文書同好会	原本の確認	1/6
101	須田家文書「戊申歳日記 久留生瀬戸家」	1	古文書同好会	勉強会テキスト	1/7
102	須田家文書「戊申歳日記 久留生瀬戸家」	1	古文書同好会	勉強会テキスト	1/14
103	堀越家文書「布見本帳」ほか	14	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	1/15
104	婚礼用黒振そでほか	3	森と街をむすぶ 木馬をつくる会	展示	1/25～3/10
105	くだまき	1	飯能市立美杉台小学校	授業の教材	1/24～1/28
106	小川家文書「小川香魚日誌」	1	古文書同好会	勉強会のテキスト	1/24
107	小川家文書「小川香魚日誌」	1	古文書同好会	勉強会のテキスト	1/25
108	柳行李弁当入、弁当箱(アルミ製)ほか	4	個人	小学校での社会科学習	2/8
109	写真「吾野駅前Ⅰ」ほか	2	文藝飯能編集委員会	文芸飯能32号に掲載	2/6～2/29
110	堀越家文書「袖見本切8枚綴」ほか	15	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	2/12
111	宿谷家文書「武州百姓乱棒之書」	1	古文書を読む会	勉強会テキスト	2/12
112	行灯	1	個人	看板作成	2/14
113	須田家文書「嘉永元年戊申歳日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	2/16
114	須田家文書「戊申歳日記久留生瀬戸家」	1	古文書同好会	勉強会テキスト	1/18
115	『飯能2丁目の山車』『郷里のにぎわい』ほか	3	個人	学習	2/19
116	須田家文書「戊申歳日記久留生瀬戸家」	1	古文書同好会	勉強会テキスト	2/25
117	レコード「あゝ振武軍/名栗川小唄」	1	飯能岳欽会	詩吟の大会	2/28～3/15
118	飯能白ひき唄	1	飯能の“みんなよう”保存会	学習	3/2
119	須田家日記「戊申歳日記 久留生瀬戸家」	1	古文書同好会	原本の確認	3/4
120	須田家日記「戊申歳日記 久留生瀬戸家」	1	古文書同好会	原本の確認	3/6
121	写真「高機で織っている様子」ほか	2	坂戸市教育委員会	資料館内展示資料の説明付図	4/1
122	『中世 北武蔵の城』	1	個人	研究	3/8
123	中村家文書「御公用書写」ほか	814	個人	研究	3/18
124	小川家文書「小川香魚日誌」	1	古文書同好会	勉強会テキスト	3/24

施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成23年度は、駿河台大学野村ゼミによる特別展示室の利用があった。図書室の団体利用はなかった。

学習研修室は、講座・学習会や定点撮影プロジェクト、市民学芸員といった交流事業など当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルに利用されている。その他、団体での見学者や市内の小学生の見学、他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。

学習研修室利用実績

利 用 種 別	年 度	平成21(2009)年度		平成22(2010)年度		平成23(2011)年度	
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
団体等の利用	恒常的活動(学習サークル)	77	1,106	76	1,109	72	1,036
	見学・閲覧	9	110	17	147	9	137
	他団体の主催事業等	13	265	24	295	16	257
	小 計	99	1,481	117	1,551	97	1,430
	当館の主催事業	75	1,349	125	1,569	80	1,202
	合 計	174	2,830	242	3,120	177	2,632
	年間利用日数	140日		195日		161日	

◎主な活動団体

古文書同好会・古文書勉強会・飯能郷土史研究会・多聞の会・石仏談話会・ずいひつの会・飯能市郷土館友の会・みんようネットワーク飯能・古文書を読む会

◎平成23年度末現在で活動している学習サークル

古文書同好会

設 立 平成3(1991)年4月
目 的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及びその活字化。

代表者 中里 和夫

会員数 16人

活 動 毎月第1・3土曜日

古文書勉強会

設 立 平成18(2006)年12月
目 的 飯能市内の古文書の解説をとおして歴史を知る。

代表者 不在

会員数 7人

活 動 毎月第2・4土曜日

多聞の会(仏教美術学習会)

設 立 平成6(1994)年11月
目 的 仏像・仏画・仏教建築など広く仏教及び仏教美術について広く学習する。

代表者 綾部 光芳

会員数 27人

活 動 8月を除く毎月第3木曜日に例会(うち見学会3回)

石仏談話会

設 立 平成7(1995)年1月
目 的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化

を学ぶ。

代表者 不在

会員数 14人

活 動 第2金曜日に活動(学習会と見学会)

飯能郷土史研究会

設 立 昭和48(1973)年7月

目 的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。

代表者 坂口 和子

会員数 82人

活 動 年6回の例会

みんようネットワーク飯能

設 立 平成8(1996)年

目 的 民謡をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。

代表者 石井 英子

会員数 30人

活 動 不定期

古文書を読む会

設 立 平成22(2010)年

目 的 飯能市内の古文書の解説をとおして歴史を知る。

代表者 不在

会員数 8人

活 動 毎月第2・4日曜日

レファレンスの対応

当館には、窓口や電話、電子メールによる様々な問い合わせがある。その内容は、観光情報や文化財の所在地といったその場で答えられるものから、資料の有無や地域の歴史掘り起こしなど回答に時間がかかるものまで多種にわたる。このうち、調査を行った場合は、その経過や回答内容などを「レファレンス対応記録票」に記入している。その理由は、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためである。平成23年度にてレファレンス対応記録票に記入された内容は下表のとおりである。

また、平成18年度からは、それ以外のその場で答えられる内容の問い合わせについては、その件数を把握するために窓口と電話の傍に「件数記録票」を置き、対応するごとに記入することとした。その集計結果は右表のとおりである。

これによれば、窓口が8割で電話が2割、窓口での1件あたりの対応時間の平均は8.5分、最短1分、最長40分、電話では平均7.3分、最短1分、最長20分だった。照会者は一般が90%、次いで子ども(小・中学生)が6%を占める。問い合わせの時期については特に集中する傾向は見られなかった。

レファレンス対応件数

照会者	窓口	電話	合計
一 般	81	20	101
子ども	7		7
職 員	1	1	2
その他		1	1
総 計	89	22	111

レファレンス対応記録一覧

No.	照会日	内 容	回答日	照会者	手段
1	5/4	諏訪八幡神社境内にある看板の文章の内容について	5/4	一般	電話
2	5/10	「龍涯山」の表記について	5/12	UR 都市機構	E-mail
3	6/16	平岡レース敷地にかつて住んでいた女性と連絡をとりたい	6/16	一般	電話
4	8/13	武州一揆の研究者、史料等の所在について	9/7	学生	E-mail
5	9/15	大正及び昭和の御大典の時の河原町の写真について	9/21	一般	来館
6	9/17	昭和23～28年頃の第一小学校校舎写真について	9/21	一般	来館
7	9/27	国際興業が運行していた名栗～飯能～川越～池袋の直行バスについて	10/9	市職員	電話
8	11/4	『武州高麗郡中山村記録』所載の史料について	11/13	一般	E-mail
9	11/15	精明村の消防団関係の史料の所在について	9/17	西部広域 消防本部	電話

講師派遣

当館に対しては、他の団体や機関から講師派遣や原稿執筆の依頼がある。この講師派遣の件数や依頼内容についても、地域の文化・歴史を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測るバロメーターとの一つと言える。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(32頁)に掲載してあるため、それ以外のものについて示すと、下表のとおりとなる。

講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内 容	対象者	人数	会 場	担 当 学芸員
1	4/8(金)	13:00~14:00	飯能市役所 職員課	新規採用職員研修「飯能の地理と歴史」	新規採用職員	30	当館学習研修室	曾根原
2	4/16(土)	14:30~16:30	飯能郷土史 研究会	講演会「飯能の石塔について ー調査成果からー」	飯能郷土史 研究会会員	30	当館学習研修室	村上
3	7/22(金)	10:00~13:30	飯能第一小学校	飯能第一小学校周辺の歴史的 環境「天覧山と多峯主山」	飯能第一小学校 教員	36	飯能第一小学校	村上
4	7/26(火)	14:00~14:40	飯能市友好都市 交流委員会	出前講座 「飯能市と高萩市のつながり」	飯能市友好都市 交流委員会会員	29	総合福祉センター	柳戸
5	7/30(土)	9:25~9:55	飯能市役所 体育課	スポーツ少年団友好都市交流 事業事前学習会「飯能市と高萩 市のつながり」	スポーツ少年団 サッカー部児童・ 指導者	27	美杉台公民館	尾崎
6	8/17(水)	13:00~16:30	飯能市 教育センター	「はんのう・探検・発見・体験」 研修会「飯能の歴史と文化」・ 「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学	今年度初めて飯 能市に転入した 教職員	11	当館学習研修室・ 常設展示室・収 蔵庫	柳戸
7	9/27(火)	13:00~16:00	(株)ワンビシ アーカイブズ	第3回公文書管理セミナー 「評価選別業務の実際」	官公庁、文書館等 の文書管理担当者	21	(株)ワンビシ アーカイブズ本社	柳戸
8	11/26(土)	15:00~16:30	日高・飯能民主 文庫の会	講演会「むかし飯能にあった 水力発電」	日高・飯能民主 文庫の会会員	27	富士見公民館	柳戸
9	11/26(土)	14:00~17:00	首都圏形成史 研究会	第83回例会「飯能炎上ー明治 維新・激動の6日間ー」・特別 展示見学	首都圏形成史研 究会会員	12	当館学習研修室・ 特別展示室	尾崎
10	12/5(月)	9:20~10:50	駿河台大学	博物館実習講義「小規模博物 館学芸員の現状」	駿河台大学学芸員 養成課程受講者	12	駿河台大学 実習室	柳戸
11	1/15(日)	14:00~16:00	所沢市生涯学習 推進センター	所沢市市民学芸員養成講座第 4回「市民との協働事業『定点 撮影プロジェクト』について」	講座受講生	30	所沢市生涯学習 推進センター	柳戸
12	2/26(日)	10:00~12:00	三芳町歴史民俗 資料館	歴史講座「あかり・電気」第2 回「おらが村の水力発電ー村 人が創った飯能の水力発電ー」	講座受講生	23	三芳町歴史民俗 資料館	柳戸

合計のべ 288 人

当館はモノ資料やそれに関する情報を通して市民が地域の歴史や文化について学習するための社会教育機関である。その使命を果たすためには、モノ資料を収集し保存することが不可欠である。収集の多くは市民からの寄贈によっているが、それは資料寄贈申請書(施行規則様式第5号)の提出とそれに対する資料受領書(同様式第7号)の交付によってなされ、そこで初めて当館の所蔵となる。

収集の手段としては、この他に市役所内各課・施設、機関からの移管や、購入もある。このようにして収集した資料は、市民の財産として永遠に保存、管理していくために整理作業へと移される。

寄贈資料

平成23年度に寄贈を受けた資料は下表の32件、147点である。

寄贈資料一覧

(敬称略)

No.	資料名	数量	寄贈者名
1	戦時中衛生兵としてニューギニアで使用した医療器具	1 式	滝田 輝江
2	『日の出町史』	4 冊	池田 昇
3	軸装(三幅対)、屏風(六曲一双)、加治村全図、古銭など	12点	島崎 哲一郎
4	古文書	1 式	浅見 博助
5	飯能名勝絵葉書「柳淵より天覧山を望む」	1 枚	匿名個人
6	台紙付写真、絵葉書「東雲亭 畑屋」、天覧山案内図など	11点	細田 直秀
7	投票箱(昭和55頃まで使用)	1 点	飯能市選挙管理委員会
8	古文書「[坂石町分学校取調ニ付書上]」	1 点	石井 新一
9	糸綜統・箴	5 点	石井 英子
10	古文書「月掛集金帳通壱丁目町用掛」、「天明後米一俵価格表」など	1 点	志賀 重子
11	古文書「伝馬簿五・六組、伝馬簿控五・六組」、「諸配給物控」など	3 点	小島 良男
12	大河原文子家(亀屋薬局)文書	1 箱	大野 哲夫
13	写真「都市対抗オールハンノウ記念」	1 枚	中里 光男
14	古写真「能仁寺稚児行列」	2 枚	小川 近
15	『中山備前守信吉』	2 冊	石井 英子
16	(欠番)		
17	『画集 緑と水と山と風』、『水彩の旅スケッチに出かけよう』など	4 冊	小島 文明
18	古文書「明治34年2月町会議員選挙原簿 飯能町役場」	1 点	野川 康雄
19	衣料切符、戦時貯蓄債券、引札、台紙付写真	25点	細田 直秀
20	土屋銘仙緋部関係資料、国鉄関係資料	1 式	土屋 義男
21	『郷土の先人 尾高惇忠』	1 冊	荻野 勝正
22	『折々の言の葉 毛呂山歴史随想』	1 冊	山口 満
23	古写真「岡部運送店新春初荷風景」	1 点	匿名個人
24	能仁寺の瓦	1 点	浅川 道夫
25	飯能名勝絵葉書「多峯主山街道」	1 点	牛米 努
26	看板「割烹 酔仙楼」、台紙付写真、古文書類	46点	真野 由紀
27	台紙付写真、飯能第三尋常高等小学校工事設計図など	34点	飯能第一小学校
28	古文書(コピー)	2 点	奥田 豊
29	DVD『運転室展望ビデオ25 西武レッドアロー』	1 点	大野 勝男
30	内裏雛、三人官女、はいはい人形、藤娘人形など	6 組	匿名個人
31	飯能町広渡寺本堂建築仕様設計書、原市場村役場改築工事仕様書など	3 点	間々田 和夫
32	刀(昭和56年小沢正寿作)	1 点	笹本 義雄
33	落合寿親書状	1 点	双木 利八郎

購入資料

平成23年度には以下の資料を購入した。

①旧大河原文子家(亀屋薬局)文書

6箱(約500点)

当該史料群は、飯能村で世襲名主をしていた大河原家(堺屋)より分家した家に伝来していたものである。同家は飯能村の名主も務め、江戸後期における当代一流の学者や絵師などを批判し評判となった『学者必読妙妙奇談』の著者とされる大河原文左衛門(亀文)などが輩出している。亀文に関わる著作や書簡のほか、飯能の「市」(通称「縄市」)の実態を示す史料などが含まれ、本市にとって非常に重要なものであるが、平成20年の店蔵解体以後、その所在が不明となっていた。

②軸装「三教先生之図」(相沢五流画・大河原亀文讃)

文政2(1819)年(本紙)72.9×34.1cm

ここでいう「三教」とは、神道、儒教、仏教を指し、天照大神、孔子、釈迦の3人が描かれている。描いたのは多摩郡関戸村(現在の多摩市)の絵師相沢五流で、着讃した大河原亀文は、五流の古希を祝った句集「関五流古希祝句集」の跋文を執筆するなど交流があった。

③飯能焼 3点

- ・瓢箪文徳利 (器高)18.2cm (底径)6.0cm
(口径)3.1cm
- ・笹葉文八輪花鉢 (器高)4.9cm (底径)7.8cm
(口径)13.5cm
- ・露草文甗 (器高)19.9cm (底径)6.6cm
(口径)16.3cm

当該資料はいずれも、平成6年度に開催した特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」の際、個人から借用して展示した資料である(同展図録のそれぞれNo.108・34・68に該当)。その後、飯能焼原窯の発掘調査が行われ、原窯で生産されていた器種や製品のサイズ、器形や釉調の特徴が明らかとなった。この3点は、いずれもこの窯の製品と共通する特徴をもっていることから、原窯製品と考えられる。



軸装「三教先生之図」



飯能焼「笹葉文八輪花鉢」



飯能焼「露草文甗」

整理（情報化）

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々なモノは、そのままでは博物館の資料とはなりえない。「整理」とは、資料についての情報を整理し利用可能なものにする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。

当館の場合は、民具を除いて受け入れ台帳を作成していないので、資料が受領されると資料1点1点についてのカード作成に取りかかる。カードの書式は資料の種類によって異なり、古文書・典籍を除きすべてのカードには資料写真も添付される。それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段とするのである。すなわち整理作業とは、ドキュメント（document）作成を通した資料の情報化にほかならない。

課題としては、モノに付属しない地域の情報（例えば聞き取り結果や地域遺産の所在情報）の管理についてが挙げられる。これを組織でどう共有化し引きついでいくか、検討する必要がある。

●資料整理の概要

① 民具

民具とは、一般的には人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具を指すが、当館の場合、古文書・典籍、古写真、絵画、工芸、考古に属さない資料のすべてがこの範疇で整理されている。

民具が搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、番号が与えられる。それが資料番号となる。そして資料名・寄贈者氏名・住所・寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報がカードに記録される。平成23年度は42点の資料を整理した。

なお、収蔵している民具のうち、西川材生産に関係する用具448点は埼玉県有形民俗文化財に指定されている。

② 古文書・典籍（文献資料）

紙に文字や記号、図像などが記録されている資料がこれに該当する。地域史料と呼ばれているものの中心を占めるものである。これらの多くは昭和49年から昭和62年まで行われた飯能市史編さん事業の過程で収集されたものである。

ところで平成7年2月より開始した再整理作業であるが、特別収蔵庫における分類別から史料群別への史料の配架の変更と手書き目録のデータ入力はほぼ昨年度までで終了した。

今後は、マイクロソフト社のエクセルに入力した目録データを、原資料にあたって誤りを正して表記を統一する作業を行い、目録刊行の準備を進めていくことになる。また、それと並行して中性紙封筒、中性紙保存箱へ詰め替えも行っていく。

なお、当該年度は、新たに受け入れた12の史料群と既に収蔵していた6つの史料群、及び追加で寄贈を受けた2つの史料群は既寄贈分と一体で、カードを作成し、目録データの入力を行った。全部で20の史料群、131点を整理したことになる。

平成23年度文書整理実績

史料群名	整理点数	区分	受入年度
吉田信夫家(坂石)	3	新	平成8(1996)
関谷英男家(下川崎)	1	新	平成17(2005)
中山忠三九家(久下分)	22	追	平成22(2010)
石井新一氏蒐集	1	新	平成23(2011)
志賀重子氏蒐集	2	新	平成23(2011)
石田晃浩氏蒐集	1	新	平成22(2010)
牛米努氏蒐集	2	新	平成23(2011)
野川康雄氏蒐集	1	新	平成23(2011)
須田正史家(中山)	6	新	平成22(2010)
旧飯能市老人ホーム	1	新	平成13(2001)
小澤茂家(中藤中郷)	5	再	平成8(1996)
三河豊氏蒐集	1	再	平成10(1998)
桑田晃家(飯能)	1	再	平成8(1996)
関巖男家(飯能)	1	再	平成23(2011)
宮寺正男家(久須美)	1	再	平成23(2011)
奥田豊氏蒐集	2	新	平成23(2011)
小島良男家(双柳)	55	追	平成23(2011)
内海広美家(平戸)	2	新	平成21(2009)
梶田隆家(真能寺)	13	新	平成19(2007)
平岡レース株式会社	10	再	平成11(1999)
合計	131		

※新＝新規受入(未整理分) 再＝既収蔵の再整理 追＝追加受入

③ 古写真

当館で収蔵している写真資料は個人所蔵の写真を複製させていただいたものと、館で所蔵しているものの

2種類に分けることができる。これらの資料はいずれも、所蔵者(旧所蔵者)を単位に整理をおこない、写真1点ずつカードを作成し、所蔵者などから聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。また、目録データはマイクロソフト社のエクセルに入力している。

④ 絵画

軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、本市に在住または、ゆかりのある作家の油彩、デッサンなどの近代絵画を収蔵している。これらについては1つの作品ごとにカード化して管理している。このうち168点は、平成22年12月より群馬県渋川市伊香保町の保科美術館で保管している。

⑤ 工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接収刀剣類

を含む日本刀などがある。日本刀については、6月の燻蒸休館中に手入れを行った。

⑥ 考古資料

当館で収蔵している考古資料は、市民から寄贈を受けた飯能焼原窯表採資料や板碑などである。なお、教育委員会生涯学習課による発掘調査で得られた考古資料は、生涯学習課が管理する施設等で保存している。

⑦ その他の資料

このほかに、他の博物館、市の機関などが発行した図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している。また、本市に関係するビデオソフトやDVD、記録映像として価値があるもの、さらにはレコードやテープ、CDといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用できるようになっている。

カード作成もしくは目録登録済資料点数一覧

(平成24年5月現在)

民具	古文書	古写真	絵画	古美術	工芸	文学	考古	映像	レコード	テープ	図書	合 計
5,434	43,299	5,664	446	1	272	26	1,764	208	858	84	14,099	72,155

●名栗民俗資料室の資料保存と活用方針の検討

① 経 緯

平成17年1月の名栗村との合併以後、元名栗村役場の建物とその中に収蔵された民俗資料が、名栗民俗資料室及び収蔵民俗資料として、当館の管理下となった。

だが、名栗民俗資料室は、降雨の際に床下を水が流れることから一階では一部床が抜け、加えて雨漏りのため天井が落下している部分があるなど、民俗資料を保存する環境としては劣悪の状態にあった。事実、民俗資料の中には虫損が著しいものも数多く見られた。

以上のような状況を改善すべく、平成22年度に、名栗民俗資料室に収蔵された民俗資料の全貌を把握することとし、資料1点ごとに基本カードを作成、資料には荷札をつけて照合可能な状態とするとともに、資料のクリーニング作業を実施した。この結果、総数670点の資料が把握できた。

② 飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会の設置

前述のように元名栗村役場の建物は資料を保存する環境としては劣悪の状態である。このため、隣接する旧名栗村森林組合事務所の建物を西川広域森林組合より寄付していただき、ここに資料を保管することとした。しかし、旧名栗村森林組合事務所の建物は木造垂鉛メッキ銅板葺2階建の床面積165.3㎡であり、元名栗村役場の建物(床面積553.8㎡)に比べきわめて狭小であり、すべての資料を保存することは困難である。このため保存すべき資料を選別すること、さらに保存した資料の活用方針を検討することを目的に平成23年4月1日に「飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会」(以下「検討委員会」という)を設置した。

③ 保存資料の選別と資料の移動

4月12日に第1回の検討委員会を開催し、現存する民俗資料を視察した後、保存資料の選別基準について検討した。その結果、次のような基準を策定した。



民俗資料の視察(第1回委員会)

- ・名栗地区に特徴的な生業(林業・炭焼き・養蚕・製糸・機織りなど)に直接結び付いているもの、名栗地区における生活(衣食住)を支えるために使用・調達されたものについては可能な限り保存する。
- ・破損や虫損が著しいもの、資料情報がないもの、同様の資料が多量にあるもの、資料の一部(部品など)で活用の見込みがないもの、民俗資料とみなされないものなどは保存対象から除外する。

この選別基準に基づき、5月25日・26日に資料の選別を行い、総数670点のうち、437点を保存対象とし、7月8日開催の第2回検討委員会です承を得た。これ

を受けて7月末及び9月前半にかけて保存対象資料を1箇所に移動し、9月26日から30日に被覆燻蒸した。また、8月からは新たな保管施設となる旧名栗村森林組合事務所建物の清掃、遮光カーテンや収蔵棚の設置、建物の消毒を実施、11月17・18日、12月7日に保存対象資料を移動した。なお、保存対象から外れた資料については寄贈者各家を訪問し、廃棄することの了承を受けた。資料移動後、元名栗村役場の建物は2月から3月にかけて解体した。

④ 資料活用方針の検討

新たな収蔵場所となった旧名栗村森林組合事務所は昭和24年に建てられた古い建物であり、資料を保存した結果空いているスペースも限られたため、ここでの資料の展示や活用は不向きである。

資料の展示、活用については第1回目の検討委員会から話題になっており、いずれかの施設での展示を求める意見が委員から多く出されていた。しかし、展示場所を確保することができず、2月3日に開催された第3回検討委員会では、将来の展示にそなえ資料情報を整備していくこと、検討委員会は次年度も継続することとし、活用方法について協議していくことを確認した。

飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 名栗民俗資料室に所蔵する民俗に関する資料(以下「資料」という。)の保存及び活用について検討するため、飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会(以下「検討委員会」という。)を置く。

(職務)

第2条 検討委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 資料の廃棄及び保存に関すること。
- (2) 資料の活用方針に関すること。
- (3) その他飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が必要と認めること。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員8人以内をもって組織する。
2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 学校教育の関係者
- (3) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会長及び副会長)

第5条 検討委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、検討委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討委員会は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 検討委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

(関係者の出席等)

第7条 検討委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 検討委員会の庶務は、飯能市郷土館において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会委員名簿

役職	氏 名	役 職 等	選出区分
会長	有馬 壽雄	元名栗村史編さん委員長	学識経験者
副会長	岡部 靖司	元名栗村教育長	学識経験者
委員	島田 稔	文化財保護審議委員会委員	学識経験者
委員	宮本八恵子	元名栗村史執筆者	学識経験者
委員	浅見 浩士	自治会連合会名栗支部長	その他
委員	佐野 章	名栗地区まちづくり推進委員会会長	その他
委員	中川 信也	名栗小学校社会科主任	学校教育の関係者
委員	田端 高彦	名栗中学校社会科主任	学校教育の関係者

修 復

●丸中織物工場製作昭和初期16mmフィルム

当館では、現在の南町にあった丸中織物工場が昭和10年前後に撮影した16mmフィルム9本を所蔵している(下表)。これらは、撮影から70年以上が経過して酢酸臭を放つようになり、支持体の劣化や乳剤の変質、カビの発生など今後の保存が危ぶまれる状況にあるため、平成20年度から株式会社東京光音に委託して修復を行っている。内容は、超音波によるク

リーニングと劣化要因となる汚れ、カビの除去及びメディア変換である。

映像を変換した媒体は、マスターをDVCAM、視聴用はDVDとした。平成23年度はNo.6と8の2本を行い、9本すべての修復が完了した。これにより、今後の映像内容の確認と調査、活用が可能となった。

丸中織物株式会社製作16ミリフィルム一覧

No.	容器外面タイトル	フィルム内タイトル	長さ (フィート)	撮影年月日	製作	撮影	備考
1	丸中用 光栄	昭和九年拾壹月拾七日 光栄 丸中織物株式会社	175	昭和9.11.17			平成21年度修復
2	第参回体育大会		400	昭和9			平成21年度修復
3	遠足汐干狩 丸中したしみ会	昭和十一年五月八日 遠足汐干狩 丸中織物株式会社	350	昭和11.5.8			平成21年度修復
4	新工場建設 祝南京陥落		400				平成20年度修復
5	丸中工場 第四回体育大会 したしみ会	昭和九年拾月廿一日 第参回体育大会 丸中織物株式会社したしみ会	400	昭和9.10.21	日比谷商店	甘茶倶楽部 中川孝吉	平成22年度修復
6	飯能工場懇話会主催 第四回 体育大会 丸中工場参加巻	第4回工場従業員慰安運動会 丸 中織物株式会社参加出場状況 主 催飯能工場懇話会 後援埼玉県工 業懇話会	400	昭和10.4.21			平成23年度修復
7	朝香宮御台臨 旅行大島登山 防空演習実況		400				平成22年度修復
8	丸中工場 運動篇		400				平成23年度修復
9	遠足江ノ島 安全週間 永田道ぶしん		300				平成20年度修復

※太字が平成23年度に修復したもの。

保 存

●新収蔵資料の燻蒸

当館では、平成15年度から新規に収集した資料をビニールシートで覆う被覆燻蒸を実施している。年1回荷解室で行い、資料はその後に収蔵庫に収納される。

平成23年度は6月17日(金)に準備として燻蒸対象物を移動し、20日(月)に養生作業をし、午後1時から投薬、22日(水)午後1時まで燻蒸処理をし、その後排気、23日(木)に完了した。使用薬剤はエキヒュームSである。この間、6月21日(火)から6月24日(金)までを臨時休館とした。

●収蔵庫・展示室の環境調査

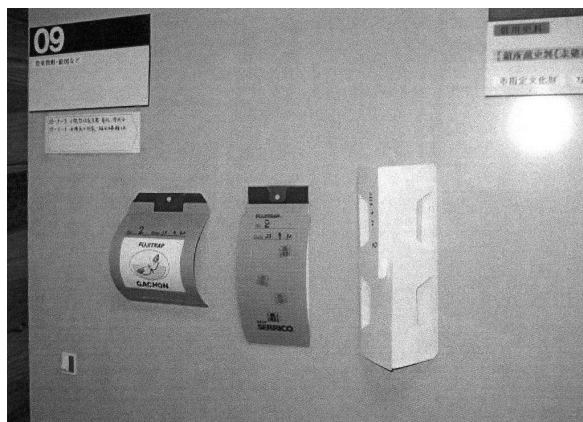
収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象は、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、内容は、昆虫生息調査87ヶ所(歩行性昆虫トラップ81・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査9ヶ所、表面付着菌調査が6ヶ所である。

平成23年度は1回目を6月11日から7月7日まで、2回目を9月30日から11月8日までの期間で実施した。調査の結果、資料に影響を及ぼすほどの害虫や菌類の存在は確認されず、展示室・収蔵庫は良好な環境にあることがわかった。

●歴史公文書の収集と保存

飯能市文書管理規則第40条では「前条第1項の規定により廃棄を決定した文書のうち、歴史資料として重要であると認められるものは、主管課長が教育委員会及び庶務課長と協議のうえ、教育委員会に移管するものとする。」と規定され、飯能市教育委員会文書管理規程第41条で「前条第1項の規定により廃棄を決定した文書のうち、歴史資料として重要であると認められるものは、主管課長が郷土館長と協議のうえ、郷土館に移管するものとする。」とされており、廃棄対象文書のうち歴史資料として重要な文書の収集は当館の業務の一つとなっている。

本市では、これまで保存期間が3・5・10・永年の文書は旧平岡レースから譲り受けた倉庫(山手書庫)で



環境調査でのフェロモントラップ設置

保管していたが、平成22年度末に山手書庫が取り壊されることとなり、これらの文書は業者の倉庫に保管委託することとなった。このうち保存年限が過ぎた文書は年度初めに業者の倉庫から運び出され、各課で確認後、廃棄文書として市役所第二庁舎の一角に集められる。当館ではこれら廃棄対象となった文書から歴史資料となりそうな文書を選び出している。ただし、これは廃棄決定直後の短期間のうちに選別する作業のため、歴史公文書保存のためのあくまで一次選別である。選定した文書は業者の倉庫に保管委託している。

平成23年度、廃棄対象となった文書は段ボール箱(高26cm×幅33cm×奥行21cm)1051箱分であり、これを6月23日から7月15日の8日間かけて選別し、104箱分を保存した。

今後、これらの文書から二次選別をすすめ、保存すべき文書を確定することが課題となっている。



歴史公文書の選別作業

地域の歴史、文化についての調査・研究は、地域博物館にとって核となる重要な業務である。特別展などの展示や学習会、レファレンスの対応、資料の貸出利用など、博物館活動のすべては、これを基盤として成り立っているためである。

現在のところ、調査・研究活動の現状は特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的な調査・研究が主体となっている。当館が地域博物館としての存在意義を示すために、調査・研究のあり方を検討する必要があるとされている。

特別展に関する調査

毎年秋に開催される特別展は、当館が最も力を入れている事業である。当該年度の特別展は飯能戦争をテーマに行ったが、その準備のため以下の機関で調査を行った(個人宅を除く)。

4/6・15・22 青梅市中央図書館

4/25 岡山大学附属図書館

4/26 久留米市中央図書館(福岡県)

4/27 日の出町文化財整理室

4/30 青梅市中央図書館

5/10 熊谷市内(四斤山砲模型)

5/13 横浜開港資料館

5/18 練馬区立石神井公園ふるさと文化館

5/24 入間市博物館・国文学研究資料館(立川市)

5/26 智観寺(本市中山)

6/2 小平市中央図書館・西東京市中央図書館

6/3 瑞穂町郷土資料館

6/10 日の出町文化財整理室

6/22 小平市中央図書館

6/24 渋沢史料館(北区)

6/28 国立公文書館(千代田区)

7/5 横浜開港資料館

7/12 台東区生涯学習センター

7/13 沼津市明治史料館

7/20 荒川区荒川ふるさと文化館

7/26 調布市総務部総務課公文書管理係歴史資料整理室

8/24 荒川区荒川ふるさと文化館

8/30 白虎隊記念館(会津若松市)

8/31 坂戸市歴史民俗資料館

9/6 三峰神社(秩父市)

9/15 県立浦和図書館(さいたま市)

古文書詳細調査

飯能市教育委員会では、平成16年度から21年度にかけて古文書所在確認調査を行ったが、この時には全市域を回りきることができていない。そこで、当館ではその補足調査や、当館で所蔵、もしくは受託している史料の翻刻や内容分析、及び特定のテーマを設定して行った関係史料の調査を行っている。

当該年度は、地方史料調査会と合同で8月27日・28日及び3月17日・18日に大字飯能の曹洞宗寺院である能仁寺の文書調査を行った。

そのほか、『飯能戦争関係史料集』の発行に向け、掲載予定史料の翻刻や解説内容についての確認を宮内庁書陵部の宮間純一氏に依頼した。



能仁寺の文書調査

『飯能戦争関係史料集』の刊行

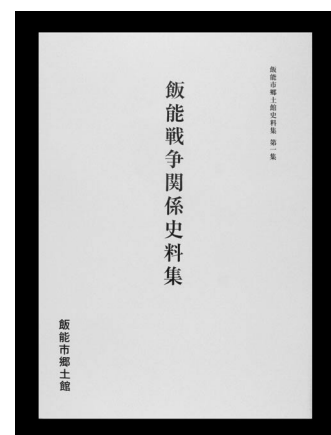
本書は、当該年度の特別展「飯能炎上」での調査過程によって把握した飯能戦争に関わる史料のうち、77点を翻刻して収録したものである。

本来なら調査で確認した史料のすべてを掲載すべきところであるが、紙幅に限りがあるため、飯能戦争の経過や振武軍に関する情報量の多いものや、これまでに翻刻・出版されていないものを優先して掲載した。

史料は、それを作成・収受した主体ごとに分類し配列した。具体的には、振武軍を中心とする旧幕府方が飯能に向かうまでに通った多摩・入間地域の村々（Ⅰ「振武軍が通った地域の記録」）、戦争当事者たる振武軍と新政府方を構成した大村・佐土原など西国諸藩や川越・忍など近隣の藩（Ⅱ「戦争当事者の記録」）、そして戦闘が実際に行われた飯能とその周辺地域（Ⅲ「戦闘地域の記録」）である。そのほか振武軍とは直接接触がなかったものの、周辺地域に広がっていた

噂・風説などの二次情報は、「日記・風説留」として括った（Ⅳ）。飯能戦争は市民の関心も高いので、これを基に多くの市民が自らの飯能戦争像を描くための支援をしていきたいと考えている。

なお、本市が発行する刊行物はA4サイズが基本とされているが、史料集の場合、A4だと2段組にした場合1行の文字数が多すぎて見づらく、また3段組では煩雑になるので、B5版を採用した。



飯能戦争関係史料集

旧平岡レース食堂棟・事務所棟の調査

●経緯

旧平岡レースの敷地は、平成11年4月に土地開発公社が取得し、事務所棟、蔵、倉庫、食堂棟など活用できる建物は平岡レースより寄付を受け、市では当分の間「山手用地」と称し活用してきた。このうち、事務所棟と食堂棟については高名な建築家「遠藤新」の設計とわかり、いずれの建物も遠藤新の設計の特徴をもつ晩年の貴重な建物であることが判明した。

その後、この土地利用について再三の協議をすすめてきたが、最終的には図書館及び総合保育施設の建設用地とすることが決まった。食堂棟は機械による丁寧な解体、事務所棟は手壊し解体で再建可能な部材を保存するとともに詳細な記録を残すこととなり、その調査や記録、調査成果の報告書刊行については当館が担うことが平成23年1月に急遽決まった。

●食堂棟の調査

食堂棟の解体は平成23年3月4日に着工、

機械による解体だが、調査に配慮した形ですすめられた。最初に新設した間仕切り等の撤去を行い、内部の写真撮影を行った。次に中央部の桁行4間分の屋根、天井、壁を手壊しで解体してもらい、小屋組、軸組の測量調査を行った。その後は東側から機械で解体したが、建物中央付近で断面が観察できる状態にしてもらい、4月26日に写真撮影した。天井の両脇が低く中央部が高くなる「三枚おろし」と呼ばれる



食堂棟断面

遠藤新の特徴的な設計手法を写真におさめることができた。その後は機械による解体がすすみ、4月30日には上屋の撤去がすべて終了、5月3日から8日にかけて土間の実測調査を実施、その後基礎の撤去を行い5月12日には食堂棟の解体と現地での調査が完了した。

調査は井上祐一文化学園大学教授、大平茂男氏(協同組合伝統技法研究会代表理事)のご指導のもと、当館学芸員柳戸が行った。

●事務所棟の調査

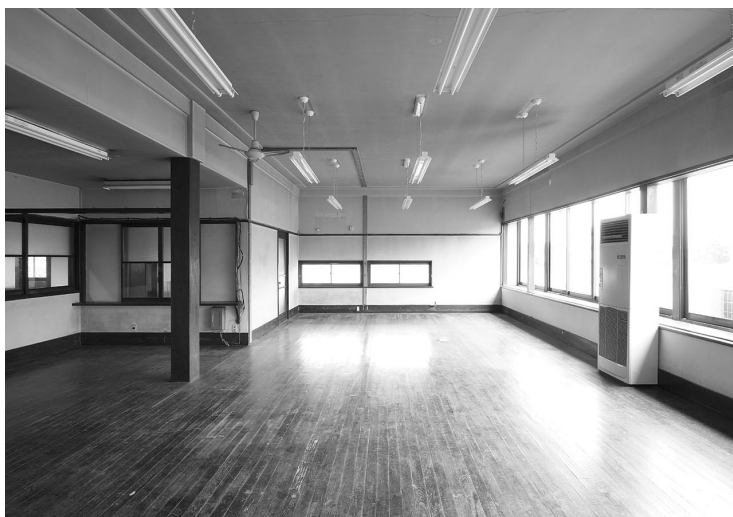
事務所棟の調査は株式会社文化財工学研究所に委託した。しかし、予算の制約から当初想定していた全ての図面作成を委託しきれず、各部屋の展開図や1、2階の床伏図、見上図などは柳戸が作成した。

解体は手壊しによることを基本とし、構造部材は残しながら解体していき、最後に保存する部材を選定し、取り外す形をとった。

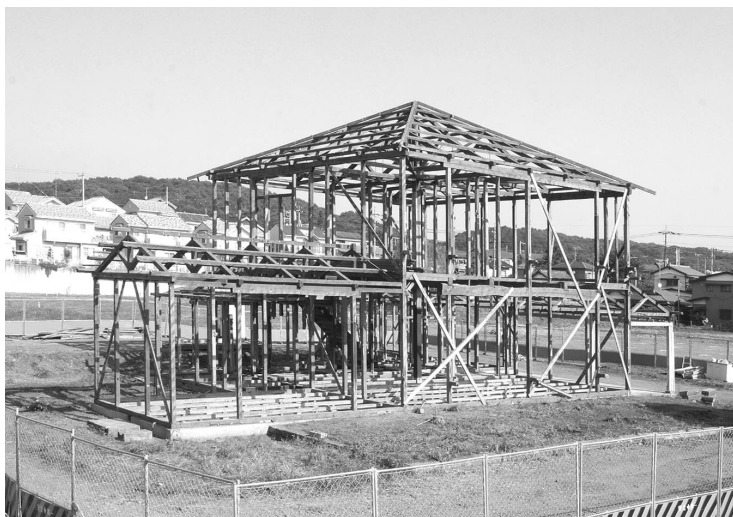
工事が入る前の8月下旬から上旬にかけて外観・室内の写真撮影と実測を行った。9月28日に外部の足場と仮囲の設置が完了し、仕上げ部材の撤去と調査を併行してすすめた。10月30日には仕上げ材の撤去が全て完了、足場を解体して構造部材だけの姿があらわれた。ここで保存すべき部材を確定し、11月7日からクレーンを用いて構造部材を解体、10日には完了し翌日から基礎の調査に入り、11月20日には事務所棟の解体と調査が完了した。

●調査報告書の刊行

現地での調査完了後、図面等の整理とともに、建築関係書類の調査、平岡レース株式会社の変遷や作業時の状況についての聞き取り調査、文献調査等をすすめ、これらをまとめた『旧平岡レース(株)事務所棟・食堂棟調査報告書 ―建築家「遠藤 新」建物調査―』を刊行した。



事務所棟内部



事務所棟軸組

刊行図書



- 特別展図録「特別展飯能戦争『飯能炎上』—明治維新・激動の6日間—」
A 4 判56頁(平成23年10月15日発行)
- 飯能市郷土館史料集第一集「飯能戦争関係史料集」
B 5 判100頁(平成24年 3月31日発行)
- 旧平岡レース(株)事務所棟・食堂棟調査報告書—建築家「遠藤新」建物調査—
A4判124頁(平成24年 3月31日発行)
- 飯能市郷土館館報「郷土館のプロフィール」第 8 号
A 4 判62頁(平成24年 3月31日発行)

郷土館だより

「郷土館だより」は、郷土館の事業を知っていただくための広報誌で、平成13年 5 月 1 日に創刊号を発行した。その後、都合により回数が減った年もあるが、年 4 回、季節ごとに発行することを目標にしている。体裁は片内印刷による白黒 A 4 判 4 ページである。

費用の点から、全戸配布ではなく各戸回覧で見ていただくことにしており、配布にあたっては、自治会・町内会の皆様にご理解とご協力をいただいている。平成23年度は下記の 2 号を発行した。

平成23年度の郷土館だより

号 数	発行日	内 容
第30号 (初秋号)	平成23年 9 月 1 日	郷土館平成23年度の主な行事予定(案内)／収蔵資料目録 5「写真資料目録—名栗地区—」／飯能市郷土館館報「郷土館のプロフィール」第 7 号／第13回定点撮影プロジェクト写真展「昭和の思い出—私のとっておきの 1 枚—」(案内)／小中学校社会科研究展(案内)／特別展「飯能炎上—明治維新・激動の5日間」(案内)／これまでの展示／市民学芸員養成講座(第 V・VI 期)終了
第31号 (晩秋号)	平成23年11月15日	特別展「飯能炎上—明治維新・激動の5日間」見どころ／これまでの展示講座など(「第13回定点撮影プロジェクト写真展昭和の思い出—私のとっておきの 1 枚—」、「小中学校社会科研究展」、「夏休み子ども歴史教室」、「夏休み子どもクラブ」)／郷土館ホームページのご紹介／今後の主な展示

当館での事業や地域の情報を市民をはじめとした多くの方々に伝えるための広報活動は大変重要である。当館では広報「はんのう」への事業案内の掲載、ポスター・チラシの配布、報道機関の連絡、当館ホームページでの紹介などで広報しているが、十分な効果が得られているとは言い難く、その改善が大きな課題の一つとなっている。

ホームページ

インターネットの普及に伴い、情報提供の手段としてホームページの有効性が増してきたため、当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始した。その後、当館で更新できる体制を整え、内容を検討し、平成19年4月8日から全面更新した。その内容や考え方のうち、特に留意したのは次の4点である。

- ①郷土館に関する案内を充実させる。
- ②地域情報や歴史情報を掲載し、一般の人が調べられるホームページとする。
- ③飯能市のホームページの範囲内で構成する。
- ④更新しやすいページ構成にする。

この考え方で5年近く運営してきたが、平成24年2月に飯能市のホームページが全面改訂されたのに伴い、当館のホームページも全面改訂した。

郷土館ホームページアクセス件数

月	件数	昨年度までの平均
4月	377	423.4
5月	430	432.4
6月	393	494.4
7月	565	447.0
8月	601	579.2
9月	480	563.6
10月	810	520.6
11月	858	484.5
12月	558	366.8
1月	425	447.0
2月	363	522.8
3月	274	586.6
合計	6,134	5,771.4
1ヶ月平均	511.2	488.3

That's! 郷土館

これは、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行する番組表の紙面に、「That's! 郷土館」というタイトルで毎回地域の歴史、文化を紹介しているものである。

飯能ケーブルテレビ(当時の名称)の依頼により平成13年5月から連載を開始し、現在に至っている。内容は展示資料や収蔵資料に関すること、地域の特定の歴史事象に関すること、資料の整理や調査で気

付いた点など様々である。地域情報の紹介や当館の活動内容を伝える好機なので、毎月学芸員が交代で執筆している。

ただ、テレビの番組表という性格上、ケーブルテレビを視聴している家庭のみにしか配布されていないため、より広く紹介するために当館のホームページにも掲載している。

平成23年度の掲載内容は下表のとおりである。

「That's! 郷土館」掲載記事一覧

月	内 容	担当学芸員
4月	収蔵庫のお地藏様	村上
5月	遠藤新が設計した「三枚おろし」の旧平岡レース食堂棟	柳戸
6月	多峰主山の礫石経塚について	村上
7月	石臼	柳戸
8月	岩殿観音下の「爪書の不動」について	村上
9月	消えた麦畑	柳戸
10月	多峰主山「前岩」における信仰についてー石造遺物からー	村上
11月	多峰主山の「池」に関する言い伝えをめぐってー雨乞いと池の主ー	村上
12月	畑のトンネル	柳戸
1月	特別展「飯能炎上」展示資料解説その1「御用留」(赤沢村浅見家文書)	尾崎
2月	特別展「飯能炎上」展示資料解説その2「御用向扣帳」(小川村小川家文書)	尾崎
3月	特別展「飯能炎上」展示資料解説その3 田無山総持寺(西東京市)	尾崎

郷土館の運営に関する事項を調査し、審議するため郷土館協議会がおかれている(飯能市郷土館条例第10条)。
協議会は市議会議員、学校教育の関係者、社会教育の関係者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

委員名簿

任期：平成22年7月1日～平成24年6月30日

職 名	氏 名	役 職	備考
会 長	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
副会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
委 員	石井 健祐	市議会議員	
委 員	白石 守	東吾野小学校長	平成23年3月31日退任
委 員	山下 利明	吾野小学校長	平成23年4月1日就任
委 員	黒澤 秀美	吾野中学校長	平成23年3月31日退任
委 員	中川 佳和	吾野中学校長	平成23年4月1日就任
委 員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委 員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委 員	野村 正弘	駿河台大学准教授	
委 員	保坂 裕興	学習院大学教授	
委 員	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	

開催状況

第1回 平成23年6月29日(水)

午後1時～3時30分

(議 事)

報告事項

- ・平成22年度事業報告について
- ・平成23年度事業経過について

協議事項

- ・特別展「飯能戦争」について

第2回 平成23年11月9日(水)

午前10時～11時23分

(議 事)

報告事項

- ・平成23年度主な事業の経過及び今後の予定について

協議事項

- ・平成24年度の主な事業について

第3回 平成24年3月13日(火)

午後1時～2時30分

(議 事)

報告事項

- ・平成23年度主な事業の経過及び今後の予定について
- ・飯能市郷土館条例の改正について

協議事項

- ・平成24年度の主な事業予定

博物館実習

当館では、市民サービスの一環として大学の学芸員養成課程の博物館実習を受け入れている。

原則として、市民とみなされる世帯に属する子弟で博物館学の単位を修得した学生がその対象となる。平成23年度は4人の実習生を受け入れ、下記のプログラムを行った。

実施期間 平成23年7月26日(火)～8月7日(日) 12日間

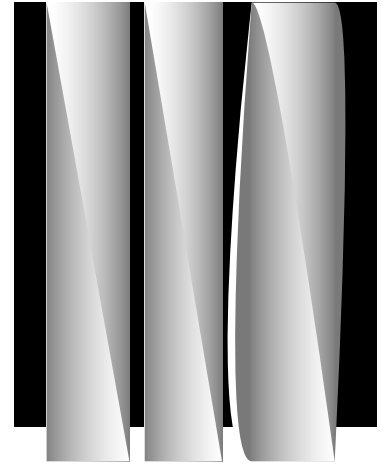
実習生 新井ひろ・羽根田育美(以上駿河台大学)・竹原千尋(学習院大学)・小倉礼子(多摩美術大学)

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	7月26日	火	オリエンテーション・当館の施設について(柳戸)	出前講座随伴(柳戸)
2	7月27日	水	名栗民俗資料室収蔵環境整備(村上)	
3	7月28日	木	名栗民俗資料室収蔵資料整理(村上)	
4	7月29日	金	旧平岡レース事務所棟展開図実測(柳戸)	
5	7月30日	土	出前講座随伴(尾崎)	信仰関係資料整理(村上)
6	7月31日	日	当館の運営と課題について(柳戸)	旧平岡レース事務所棟展開図実測(柳戸)
7	8月2日	火	夏休み子ども歴史教室準備(柳戸)	
8	8月3日	水	夏休み子ども歴史教室準備(柳戸)	
9	8月4日	木	夏休み子ども歴史教室運営補助(柳戸)	夏休み子ども歴史教室反省(柳戸)
10	8月5日	金	夏休み子どもクラブ準備(村上)	名栗民俗資料室収蔵資料整理(村上)
11	8月6日	土	夏休み子どもクラブ運営補助(村上)	
12	8月7日	日	夏休み子どもクラブ運営補助(村上)	実習まとめ(柳戸)

()は指導者名



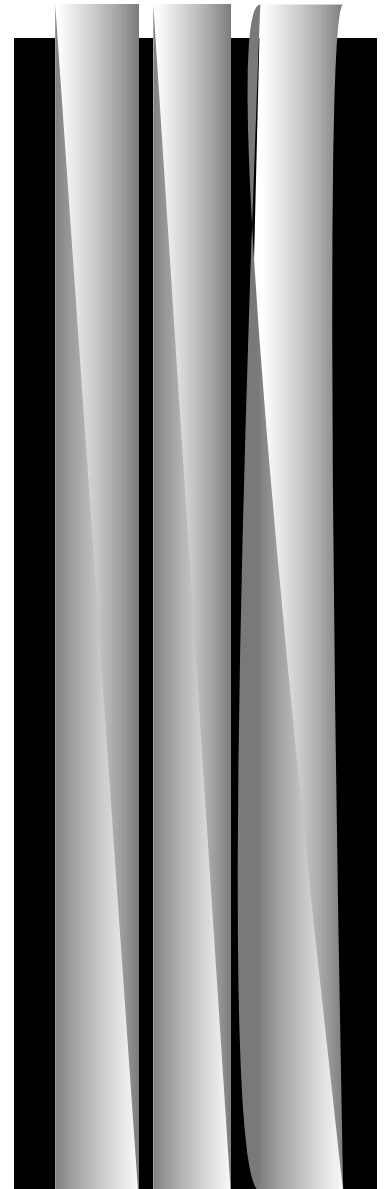
旧平岡レース事務所棟実測実習



第 3 章

..... Chapter 3

【各種データ】



利用者数

平成23年度

(単位：明記したものの以外は人)

月	開館日数 (日)	入館者数		入館者以外の利用者数							利用者 合計
		人数	1日平均	出張授業 受講者数	資料 利用者数	レファレンス 件数	講師派遣 受講者数	ホームページ アクセス件数	合計	利用者合計に 対する割合(%)	
4	25	2,550	102.0		7	1	60	377	445	14.9	2,995
5	25	1,987	79.5	70	18	14		430	532	21.1	2,519
6	26	1,509	58.0	74	10	4		393	481	24.2	1,990
7	27	1,997	74.0		8	14	92	565	679	25.4	2,676
8	26	2,129	81.9		9	14	11	601	635	23.0	2,764
9	25	1,862	74.5	103	10	7	21	480	621	25.0	2,483
10	26	2,822	108.5	113	16	15		810	954	25.3	3,776
11	24	4,231	176.3	157	9	11	39	858	1,074	20.2	5,305
12	22	1,829	83.1	97	11	6	12	558	684	27.2	2,513
1	23	2,517	109.4	49	9	11	30	425	524	17.2	3,041
2	26	3,499	134.6	13	10	7	23	363	416	10.6	3,915
3	26	2,697	103.7		7	7		274	288	9.6	2,985
合計	301	29,629	98.4	676	124	111	288	6,134	7,333	19.8	36,962

開館(平成2年度)から平成23年度末までの

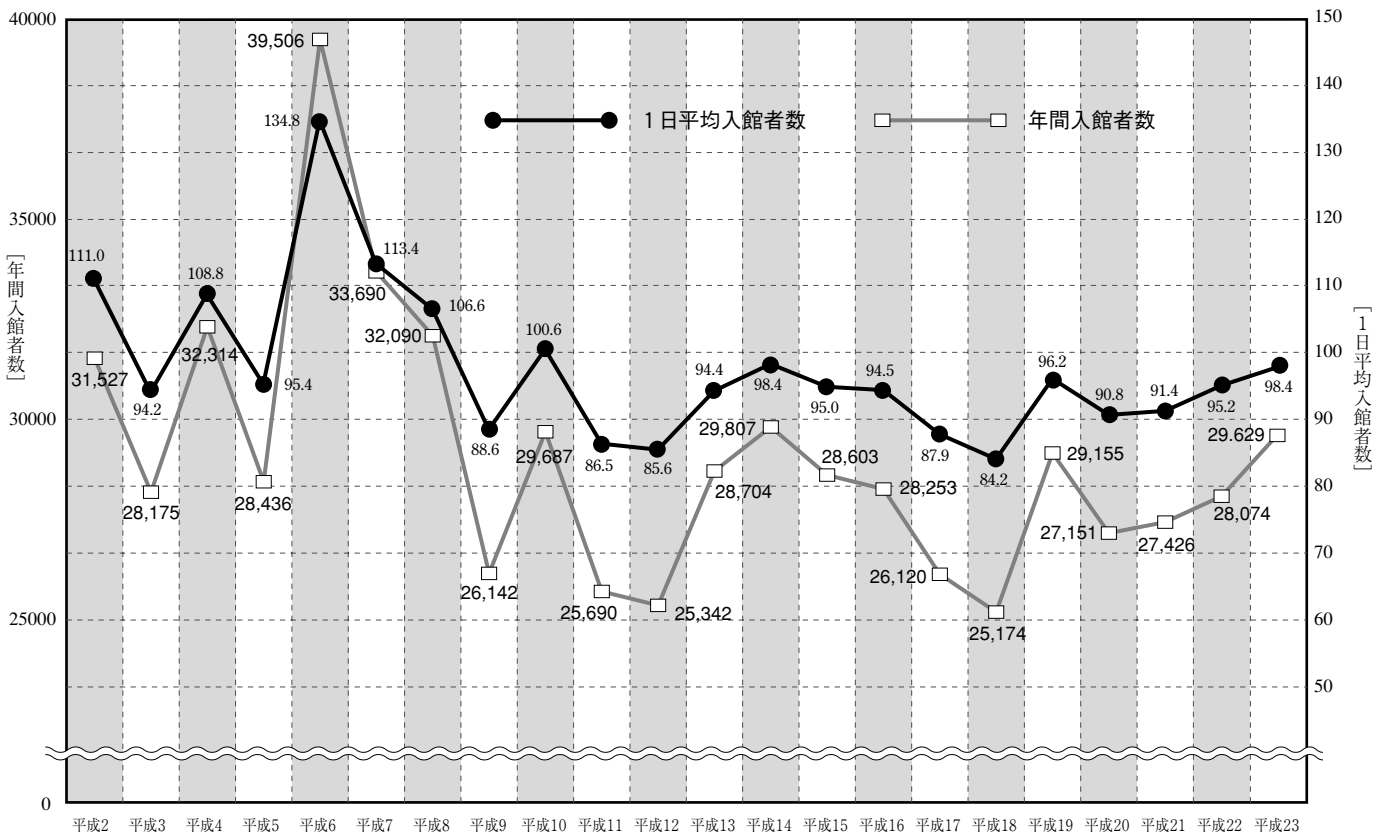
総入館者数 640,695 人

開館日数 6,547 日

1年平均入館者数 29,122.5 人/年

1日平均入館者数 97.9 人/日

〈入館者数の推移〉



歳出予算

(単位：明記したものの以外は千円)

事業名 年度	郷土館 事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・ 保存事業	調査・研究 事業	郷土館施設 管理事業	郷土館事業費 小計	名栗村史 編さん事業費	郷土館費 合計	A (%)	B (円)	C (円)
21	3,142	3,715	2,973	668	9,201	19,699	1,636	21,335	0.08%	236.5円	718.3円
	16.0%	18.9%	15.1%	3.4%	46.7%		※平成20年度より 事故繰越				
22	3,126	3,921	7,714	281	7,433	22,475	0	22,475	0.08%	270.6円	800.6円
	9.0%	11.3%	22.2%	0.8%	21.4%						
23	3,107	3,997	7,453	3,838	16,309	34,704	0	34,704	0.13%	419.7円	1,171.3円
	9.0%	11.5%	21.5%	11.1%	47.0%						

(当初予算。ただし人件費は除く)

郷土館事業費（人件費・名栗村史編さん事業費除く）の

A：飯能市一般会計当初予算に対する比率

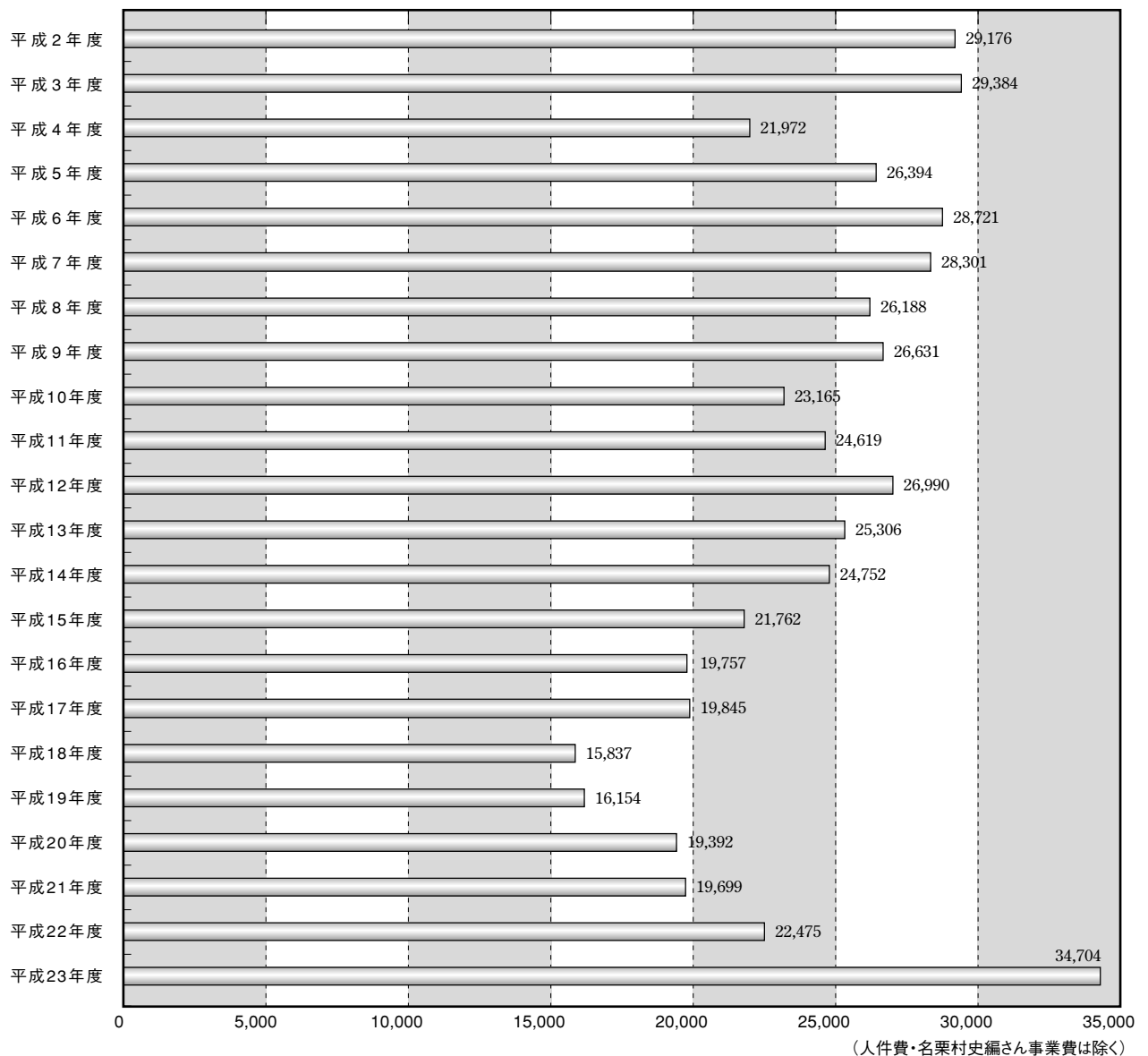
B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額

C：入館者1人あたりの金額

※平成23年度は調査研究事業に旧平岡レース建物調査、施設管理事業に名栗資料室の整備と旧名栗村役場解体費用が加えられたため、予算が大幅に増加した。

〈飯能市郷土館当初予算額の推移〉

単位：千円



図書資料寄贈機関

埼玉県

上尾市教育委員会
朝霞市教育委員会
朝霞市教育委員会文化財課文化財保護係
朝霞市博物館
入間市博物館
小鹿野町
小川町
小川町遺跡調査会
小川町教育委員会
奥むさし駅伝競走大会実行委員会
桶川市教育委員会
春日部市郷土資料館
加須市教育委員会
川口市教育委員会
川口市立科学館
川越市教育委員会
川越市立博物館
行田市郷土博物館
久喜市立郷土資料館
熊谷市教育委員会
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
熊谷市立熊谷図書館
江南町
児玉町
埼玉県
埼玉県大井遺跡調査会
(社)埼玉県建築士事務所協会いるま西支部
埼玉県さきたま史跡の博物館
埼玉県生涯学習審議会
埼玉県平和資料館
埼玉県埋蔵文化財調査事業団
埼玉県立川の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
さいたま市
さいたま市立浦和博物館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
坂戸市教育委員会
坂戸市立図書館
住宅・都市整備公団首都圏都市開発部武蔵丘丘陵開発事務所
白岡町遺跡調査会

白岡町教育委員会
駿河台大学文化情報学部平成24年度野村ゼミナール一同
精明郷土史研究会
租税大学校税務情報センター租税史料館
鶴ヶ島市教育委員会
鉄道博物館
東部地区文化財担当者会
ときがわ町教育委員会
所沢市生涯学習推進センター
戸田市立郷土博物館
日本工業大学工業技術博物館
蓮田市教育委員会
鳩ヶ谷市立郷土資料館
鳩山町教育委員会
羽生市教育委員会
飯能絵画連盟
飯能市
飯能市遺跡調査会
飯能市教育委員会
飯能市総合政策部政策企画課
飯能市租税教育推進協議会
飯能市立各小中学校
飯能市立図書館
深谷市郷土文化会
ふじみ野市上福岡歴史民俗資料館
ふじみ野市教育委員会
富士見市立難波田城資料館
富士見市立水子貝塚資料館
本庄市教育委員会
まつやま書房
三郷市
宮代町教育委員会
宮代町郷土資料館
「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」整備推進事業実行委員会
毛呂山町
毛呂山町教育委員会
吉川市
吉見町教育委員会
蔵市立歴史民俗資料館

東京都

アートクロス
あきる野市教育委員会
郁朋社
板橋区教育委員会

板橋区立郷土資料館
 大田区立郷土博物館
 青梅市教育委員会
 学習院大学史料館
 葛飾区郷土と天文の博物館
 北区教育委員会
 慶應義塾大学古文書室
 清瀬市郷土博物館
 (株) 講談社ロジコム
 恒文社
 公和美術
 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形
 文化遺産部
 小平市教育委員会
 小平市中央図書館
 小平市TAMAらいふ21推進実行委員会他
 駒澤大学大学院史学会
 (財) 渋沢栄一記念財団
 渋沢史料館
 杉並区立郷土博物館
 世田谷区教育委員会事務局
 公益財団法人せたがや文学館
 田無市企画部市史編さん室
 玉川上水と分水の会
 たましん地域文化財団
 駐日韓国大使館韓国文化院
 調布市
 調布市教育委員会
 東京大学総合研究博物館
 東京都江戸東京博物館
 東京都三多摩公立博物館協議会
 豊島区
 日貿出版社
 日本博物館協会
 練馬区立石神井ふるさと文化館
 農協共済総合研究所
 野村不動産(株)
 八王子市教育委員会
 パルテノン多摩
 東村山市
 東村山ふるさと歴史館
 東大和市
 東大和市企画財政部秘書広報課
 東大和市教育委員会
 東大和市立郷土博物館
 日野市
 日の出町
 日の出町教育委員会
 (財) 府中文化振興財団 府中市郷土の森博物館
 文化環境研究所

文京区
 文游社
 平凡社
 法政大学
 町田市教育委員会
 瑞穂町教育委員会
 三鷹市山本有三記念館文庫
 三菱地所(株)
 港区教育委員会
 港区立港郷土資料館
 武蔵村山市立歴史民俗資料館
 明治大学学芸員養成課程
 文部科学省
 林業経済研究所

その他

赤穂市立歴史博物館
 稲敷市立歴史民俗資料館
 岩宿博物館
 大蔵省印刷局
 大村市立史料館
 小山市立博物館
 各務原市歴史民俗資料館
 神奈川大学日本常民文化研究所
 かみつけの里博物館
 倉敷市教育委員会
 群馬県立歴史博物館
 国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館
 国立歴史民俗博物館
 三館協同企画展『洛中洛外図屏風に描かれた世界』プロジェクトチーム
 下関市立考古博物館
 高崎市観音塚考古資料館
 高萩市教育委員会生涯学習課
 田原市教育委員会
 田原市教育委員会文化振興課
 田原市博物館
 千葉県文書館
 土浦市立博物館
 津山郷土博物館
 東方出版
 鳥取市歴史博物館
 長野市教育委員会文化財課
 流山市教育委員会
 流山市立博物館
 野田市郷土博物館
 平塚市博物館
 松代文化施設等管理事務所(真田宝物館)
 松戸市立博物館
 横浜開港資料館
 歴史学と博物館のあり方を考える会

飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、そ

の全部又は一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験者

(平24条例17・一部改正)

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。
(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。
〔次のよう〕略

附 則(平成24年条例第7号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取

り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1号(第4条関係)

(平15教委規則9・平17教委規則20・一部改正)

様式第1号～第8号(省略)

職 員

平成23年度

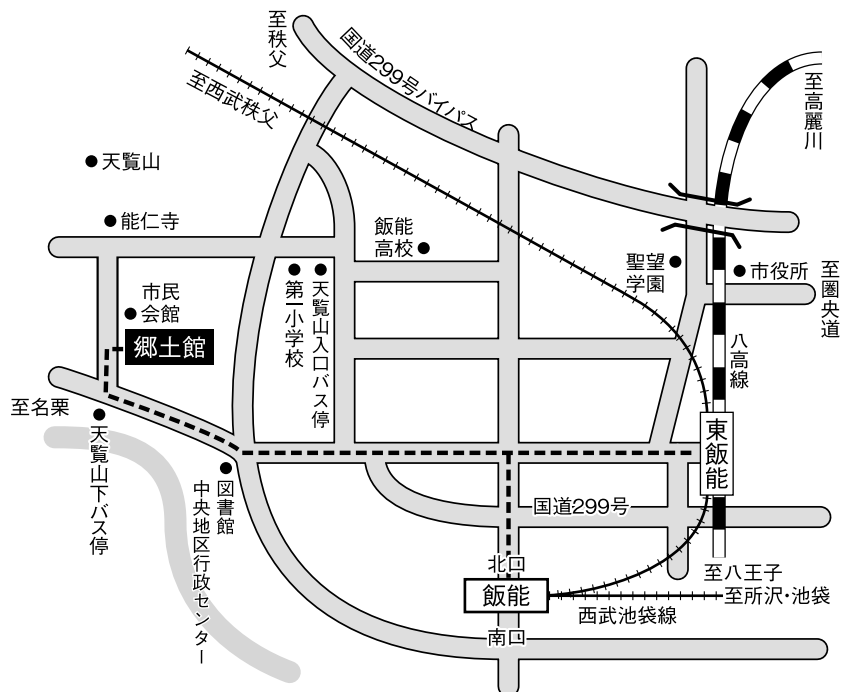
館 長	曾根原裕明
主 幹（学芸員）	柳戸 信吾
主 査（学芸員）	尾崎 泰弘
学芸員	村上 達哉
臨 時（資料整理・展示準備）	石田 朋子
	入子美佐子
臨 時（事務）	加藤 緑
臨 時（施設管理）	白石 敏之

利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料：無料

交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：西武池袋線 飯能駅下車 北口より徒歩約15分
または、国際興業バス 北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き、
西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車



飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール
第 9 号

平成25年 3 月31日発行

発行 飯能市郷土館

〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431

E-mail: kyodokan@city.hanno.saitama.jp

<http://www.city.hanno.saitama.jp/0000001734.html>

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ

〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4

T E L (042) 974-5260




 小さな発見 新たな出会い 大きな喜び
飯能市郷土館
 埼玉県飯能市大字飯能258-1
 TEL (042)972-1414 FAX (042)972-1431